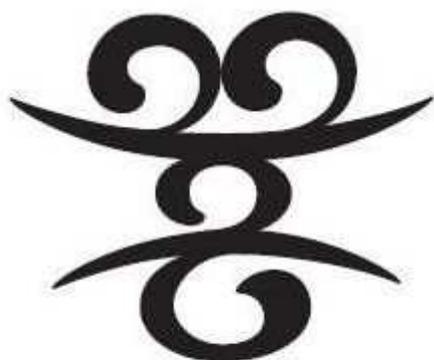


愛知県立芸術大学 F D 活動報告書

令和 5 年度



愛 知 県 立 芸 術 大 学
芸 術 教 育 ・ 学 生 支 援 セ ン タ ー

目 次

第1章 FD活動報告書

1-1 美術学部／美術研究科 FD活動報告書	2
日本画	／ 日本画	
油画	／ 油画・版画	
彫刻	／ 彫刻	
芸術学	／ 芸術学	
デザイン	／ デザイン	
陶磁	／ 陶磁	
1-2 音楽学部／音楽研究科 FD活動報告書	6
作曲（作曲）	／ 作曲	
作曲（音楽学）	／ 音楽学	
声楽	／ 声楽	
器楽（ピアノ）	／ 鍵盤楽器	
器楽（弦楽器）	／ 弦楽器	
器楽（管打楽器）	／ 管・打楽器	
1-3 教養教育科目 FD活動報告書	9

第2章 授業評価アンケート報告

概要	12
実施授業一覧	17

第3章 FD研修会	23
------------------	-------	----

第 1 章 専攻 F D 活動報告書

美術学部・美術研究科

美術				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
日本画	1 授業評価アンケートの実施	日本画実技Ⅰ～Ⅳの実習で下記質問事項のアンケートを実施(前期・後期) 1.どの程度出席したか 2.意欲的に取り組めたか 3.授業内容への興味関心が高まったか 4.「シラバス」は授業への取組みに役に立ったか 5.授業時間は十分だと感じたか 6.教員の話方、話すスピードは適切だったか 7.教員とコミュニケーションはとれていたか 8.現在の力量に合った、適切な指導を受けることができたか 9.教室・設備については適切だったか 10.専門能力向上に役立ったか 11.総合的に評価すると良い授業だと思ったか 12.良かった点・改善点・要望点等の自由記述	下記の事項について、問題点を客観的に把握するため ・シラバスと授業内容の相互改善 ・教員・学生相互の能力向上 ・教育環境の質的向上	アンケート結果から見えるもの ・2の学生による自己評価は前年度から継続して向上への意欲が見られる。 7の教員とのコミュニケーションはⅠ～Ⅳにおいて良好である。教員からの積極的な関わりも結果に反映したと考える。 9の授業環境については、自由記述でも指摘されたが、アトリエの空調及びWiFiについて今後検討の必要がある。
	2 専攻科会議の実施	2022年度に引き続き、毎週木曜日の昼食時(ブラウンバックミーティング)とし、案件がある場合、事前に議題を準備、SNSにて共有を図るとともに、短時間で効果的な会議を開催した	下記の事項について、情報を共有し、対応を協議するため ・課題の進捗状況 ・学生の受講状況・個人的な問題点など	昼食時の専攻科会議および、臨時のSNSによる情報共有が定着している。FD委員が昨年度と比較した結果、特に学生個人の課題に対し、教員による対応力の向上が確認できた。
	3 茶話会の実施	学部・大学院各学年の学生代表と教員全員による懇談会を不定期に実施(大学院を含め、各学年とも通年平均2回実施した)	通常とは違った雰囲気の中で、出来る限り学生の本音を引き出し、教員の対応や教育環境の改善に繋げたい	個人面談においては、学生各個人の課題を明確にし、アドバイスすることに注力した。随時実施することにより、それぞれが目指すものや問題意識の向上が総体的に確認できた。
	4 外部講師による講座の随時開催	下記の視点から課題を把握し、日本画の学びに厚みをつけるため、外部講師を招き、特別講座を実施している ・日本画材料・保存修復の視点 ・造形基礎の視点 ・急速な社会の変化と新たな表現の可能性 ・社会と日本画の接点と位置づけの視点	日本画の基礎・考え方の視野を広げ、学びを深める 多様化する学生のニーズに応える	各講座ともに、学生の積極的な参加態度が見られるが、特に外部講師による、より幅広い視点からの講座は、現在の学びを客観的に捉えなおす機会となっている。
油画	1 専攻科会議の実施	■実施日時: ・毎週水曜日(13:30-)に実施(毎月4週目は休み)。 ・その他必要と認められた場合に臨時専攻科会議を開催する。 ■出席者: ・油画専攻専任教員、教育研究指導員(助手長1名)	・カリキュラムの検討 ・授業内容・スケジュール改善 ・授業に関する情報共有、意見交換、改善 ・専攻運営の方法、方針の議論	・講評方法をはじめとした授業運営など、コロナ禍において大きく変更した事項について慎重に議論を重ね、状況を見極めながら改善をおこなった。 ・授業内容に関しては、前年度のFD委員会が主体となる授業評価アンケート結果及び油画専攻がおこなう授業評価アンケート、学生連絡会を踏まえ、より良い日程や内容になるように油画専攻専任教員で協議し、改善をおこなった。 ・受験生の人数と質を確保するため、学部入試の出題方法や内容について検討と協議を重ねながら検証した。 ・入試広報活動、大学案内に掲載する内容について、定期的に協議を重ねた。
	2 油画専攻授業評価アンケートの実施	油画専攻独自の「油画専攻授業評価アンケート」(記名式)を実施する。 ■対象授業: ・1～9年次に開設する全ての講座 ・油画専攻が担当する関連科目 ■アンケート形式: ・アンケートは各講座・授業の担当教員が設問を考案し、授業改善に直結した具体的な授業アンケートとする。 ・授業課題・内容変更等により必要に応じて担当教員がアンケートの形式・内容を見直す。 ・アンケートは各講座・授業終了時に教育研究指導員が配布回収し、原本を教員室で管理する。 ■アンケートの活用: ・アンケート結果は授業終了後に担当教員が確認し、授業改善に活用する。 ・年度初めにFD委員が、前年度のアンケート結果を専攻会議で報告すると共に、改善点等を情報共有する。	・授業内容、シラバス、授業期間などの改善 ・授業内容の向上 ・学生の専門能力の向上と成果の確認 ・教員の対応能力の向上	・アンケートは担当教員が設問を考案しており、具体的な授業アンケートとなっているため、授業への具体的な改善に活用している。年度当初にFD委員が、前年度の結果を確認し、専攻会議で報告・検討・情報共有した。 ■2023年度授業評価アンケート実施講座・授業 油画実技Ⅰ(講座Ⅰ-1～Ⅰ-7※Ⅰ-1は1講座制)、材料研究 10件 油画実技Ⅱ(Ⅱ-1～Ⅱ-12、写真講座) 13件 油画実技Ⅲ(文章講座) 1件 関連科目(素描及び色彩、版画研究) 2件 ■アンケート結果 自由筆記が中心となっており、授業に対する習熟度を確認する機会となっている。様々な率直な意見と共に、要望も記載された。 ■アンケート結果をもとにした改善点等(2023年度事例) ・油画実技Ⅰ講座Ⅰ-7内で開設されている「腐蝕銅版画講座」において、腐蝕銅版画のテキストの一部をノート形式としているが、前年度のアンケートに技法テキスト配布要望が記載されていたため、講座終了後、希望者に詳細な技法テキストを配布する措置を講じた。 ・油画実技Ⅱ講座Ⅱ-5において、成績評価基準が分かりにくいとの回答があったため、評価基準の表記方法の修正をおこなった。 ■2024年度検討事項 油画専攻では、油画専攻授業評価アンケート(記名式)と共に、ユニバを使用したオンライン上での授業評価アンケート(無記名式)を活用して授業改善に努めている。2024年度においては、油画専攻授業評価アンケート(記名式)の拡充として油画実技Ⅲ及びⅣについてアンケートの実施を検討する。
	3 授業評価アンケートの実施	ユニバを使用したオンライン上での授業評価アンケート(無記名式)を実施する。 ・質問内容 1.あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。 2.あなたはこの授業に意欲的に取り組めましたか。 3.この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。 4.「シラバス」は授業の取組みに役に立ちましたか。 5.授業時間は十分だと感じましたか。 6.教員の話方、話すスピードは適切だったか。 7.教員とコミュニケーションはとれていたか。 8.あなたの現在の力量にあった、適切な指導を受ける事ができましたか。 9.教室・設備については適切でしたか。 10.この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。 11.授業全般について総合的に評価すると良い授業だと思いますか。 *学生が特に良かったと判断した点、要望などを自由記述。 ■対象授業: ・アンケートの対象授業については、専攻会議にて決定する。 ■アンケートの活用: ・油画専攻FD委員がアンケート結果を専攻会議にて報告し、授業改善に向け検討をおこなう。	・授業内容、シラバス、授業期間などの改善 ・授業内容の向上 ・学生の専門能力の向上と成果 ・教員の対応能力の向上 ・教育研究機関としての施設等の不備調査、改善	■2023年度授業評価アンケート実施授業 油画実技Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 油画特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 美術特別研究 ■アンケート結果 ・授業評価アンケートの結果は概ね良好であったが、回答した学生が非常に少なかった。 ・アンケート4 シラバスについては評価にばらつきがあった。 ・アンケート9 教室、施設については評価にばらつきがあった。 ・自由筆記に率直な意見(全2件)が記載された。 ■改善点等 ・アンケート回答率が非常に低かったことについては、学期末に設定する大掃除に回答の機会を設けると、専攻独自で対策案をFD委員会に提案する。 ・シラバスについては、通年での記載となっているため、直接的に授業の参考になりにくい面があると考えられる。通年授業内で開設する各講座については、詳細なシラバスを専攻掲示板に提示している。通年授業のシラバス表記について引き続き検討すると共に、各講座実施前に提示する各シラバスの周知・活用を促すことを専攻会議で確認した。 ・教室、施設について評価にばらつきがあったことについては、毎年、学生連絡会等において「アトリエが狭い」「暑い(寒い)」「WiFiがない」など、改善を求める具体的な意見がある。アトリエの面積については、今後の予定があるとして、特に、冬の寒さと、WiFiについての改善については、引き続き専攻として大学に改善を強く求めてゆくことを専攻会議で確認した。 ・自由筆記に記載された意見(全2件:講評時間とアトリエ環境)については、専攻会議にて精査検討をおこなった。 講評時間:油画専攻教員全員で講評時間の在り方の確認をおこなった。 アトリエ環境:アトリエ使用に関するマナーを油画専攻掲示板に提示し、制作に集中
	4 学生との意見交換会	教員と学生との信頼関係を維持するため、学生、教育研究指導員、教員が一室に集い、ラウンドテーブル会議形式で意見交換会「学生連絡会」を開催する。 ■出席者:11名～12名 学生8名(学部各学年の代表者2名) 教育研究指導員1名(助手長) 教員2名～3名(各学年教務担当教員が年間を通して持ち回りで出席) ・意見交換会の内容は授業関連以外にも、施設要望、学校生活の様子など幅広く意見交換する。 ・意見交換会後、内容について専攻会議にて報告し、必要に応じて議題として議論をおこなう。 ・要望の回答については、要望内容と専攻としての回答を併記した書面を専攻掲示板に提示し学生に周知する。	・学生間及び学生教員間コミュニケーションの調査 ・ハラスメント防止 ・施設の不備調査と改善	■2023年度「学生連絡会」実施実績 年度を通して4回(5月、7月、10月、1月の水曜日12:05-)実施した。 ・各学年代表者が同じ場所に集うことで、同学年だけでなく上下間の交流も生まれている。 ・学生と教員の間でのコミュニケーションは適切に維持され、各教員は学生要望にできるだけ応えられるよう、関係する委員会や部署などにも要望や改善を年間を通して報告した。 ・これまで同様、アトリエの狭さや空調への不満など設備改善要求が多かった。また、画材屋を学内に設置する必要性を訴える切実な要望があった。さらに、研究制作展示における不審者の報告とともに対応要望があった。 ■2023年度要望と回答 年間を通じて学生からの要望(22件)と専攻としての回答(22件)を油画専攻掲示板に書面掲示した。 内訳:アトリエ施設・環境:15件、その他7件(画材屋要望2件、石膏室1件、展示中の不要者対応2件、生協1件、卒制1件)
5 作品写真アルバムの作成	・学生が授業で制作した作品を、すべてデジタル撮影し、油画サーバーで管理する。 ・PCやタブレットを用いてデジタルアーカイブしたデータを教員が閲覧できるようにする。	・高等教育としての資料のアーカイブ化 ・新たな講座内容や教育研究教材を開発するための資料 ・講座内容改善のための資料	・講座内で実施する面談や講評時において、有益な情報として学生の学習状況の確認や教育研究指導に活用した。 ・デジタル化したことによって、データの保管や二重三重のバックアップ、ウィルス対策などについて対応をおこなうことを確認した。	
6 写真講座、文章講座の実施	写真講座 2年次に実施し、作品ファイルを作成するために必要な絵画作品の撮影技術などの習得を目指す。 文章講座 3年次に実施し、自作についての的確に文章化するための能力を身につけることを目的とする。	・国際舞台でも通用するプレゼンテーション用の作品ファイルの作成 ・自作や美術作品等を語るための文章能力とコミュニケーション能力の向上	・写真講座と文章講座を通して、ポートフォリオやステートメントを作成する学生が増加し、内容についても質が向上している。 ・大学卒業後、作家活動や社会活動をする上でも、プレゼンテーション能力は非常に重要であるため、今後も講座を継続していく。 ・「油画専攻授業評価アンケート」において、好評を得ていることを確認した。	

	7	学生ファイルの作成	・学生ファイルとは1年次と2年次の各講座、3年次と4年次のチュートリアル授業及び卒業制作作品などについて学生自身がその内容や成果を記録する。 ・全在学生のファイルを油画専攻教員室キャビネットに保管し、教員や学生本人が閲覧できるものとする。作品写真アルバムと合わせて利用する。 ・卒業後の保管期間を5年間とする	・学生個々の作品制作の変遷記録・考察・確認・検証 ・学生が継続的な問題意識を持って作品制作に臨むための一助とする	・学生ファイルは学生本人だけでなく、専任教員や非常勤講師にとっても、作品の変遷を考察、検証できるため有用な資料となっている。今後も「学生ファイル」の作成を継続することを専攻全体で確認した。
	8	外部講師の招聘	芸術資料館で開催する「博士前期課程油画・版画領域研究発表展」における講演会に外部講師を招聘する。 ・講師委嘱に関して専攻会議で講師選定・確認をおこなう。	・博士前期課程に在籍する学生の研究進捗状況の客観的且つ専門的な視点からの確認 ・専門的知識の補充を図り、教育研究に役立てる	・「博士前期課程油画・版画領域2年研究発表展」及び「博士前期課程油画・版画領域1年研究発表展」の作品講演に中野に詞氏(キュレーター)を招聘した。キュレーターの視点からの講演内容となり、学生、教員共に非常に有意義な時間となった。今後も外部講師の招聘を継続することを確認した。
	9	アトリエ・教室等の改善	・油画専攻学生にとって、作品制作が最も重要な勉強方法となる。そのため、アトリエ環境は、そのまま教育研究成果や有意義な講演会や討論会などの指環にも影響を与える。 しかし、現状の施設状況では、「制作スペースの狭さ」「冷暖房機能不足」「WiFiなどのデジタル関連の未整備」という大きな問題点がある。	・各専攻の中で最も1人当たりの制作環境面積が少ない油画学生に対しての改善と拡充	・全学年を通して、アトリエの狭さ設備に対する不満が、「授業評価アンケート」及び「油画専攻授業評価アンケート」の結果や学生との意見交換会「学生連絡会」で学生から出された要望から、非常に大きいことが、確認された。 ・現状施設の重点的改善点 1.制作スペースの確保 2.冷暖房環境の機能強化 3.学内WiFi環境の構築 上記の重点的改善点は油画専攻だけでは解決できないため、全学的に考えている必要があることから、継続的に各種委員会などで報告し、改善を求めてゆく。
彫刻	1	新カリキュラム案の作成	2024年度に向けて新カリキュラムを作成。旧カリキュラムから抜本的な授業改革を行う予定。	新彫刻棟、予算、新スタッフ、旧カリキュラムとの兼ね合い、美術の動向など踏まえ、対応可能なカリキュラム作成を行う。	約2年間、専攻内での将来計画会議での議論を続け、妥当な新カリキュラムを作成することが出来た。
	2	授業評価アンケートの実施	彫刻実技1～IVの授業評価アンケートを実施した。	授業に対する学生からの率直な意見を収集し、今後の授業運営に役立てる。	アンケートに関して、その場しのぎの対策ではなく、中期的な視点を持って有用な運用をすることを意識し、新カリキュラムにて対応することになった。
	3	専攻会議の実施	隔週水曜日の13時より、2時間程度実施した。 以下の項目の議題の検討および報告・情報共有を行った。 ①学生・授業関係 ②専攻運営 ③各種委員会	大学運営に関して情報を共有し、諸課題について協議する。学生の状況を把握し、必要な対応をする。	専攻会議の運営は今年度も引き続き円滑に進めることができた。検討が必要な事柄がある場合には、教員間でよく話し合いをした。
	4	将来計画会議の実施	必要に応じて隔週の水曜日に彫刻専攻会議に続けて実施した。中長期的な視点から今後の彫刻専攻のあり方や方向性について話し合った。2024年から新彫刻棟で授業が行われる予定であり、それを機に大幅なカリキュラム編成をすることやそれに伴う備品等についても部会を作り検討した。	彫刻専攻の校舎移転に伴うカリキュラムの検討や人員の配置など、彫刻専攻の中期計画について話し合う。	2024年度から始まる新カリキュラムについて、明確な方向性を確立することができた。その新カリキュラムに即して新彫刻棟の備品等についても過不足なく検討できた。
	5	学生の研究報告書の活用	各授業毎に学生は研究報告書を提出し、これを専攻事務室でファイリングして教員が閲覧できるようにした。研究報告書には学生の作品の写真、研究テーマ、タイトル、研究の概要が記述されている。	学生が作成した各授業毎の研究報告書を専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにすることで、4年間を通じた学生の取り組みや学習状況を把握する。	研究報告書の作成を通じて、学生は制作過程や制作意図について言葉で伝える力を身につけている。研究報告書を通じて、教員は学生の授業における理解度を具体的に知る重要なツールになっている。
	6	学生カルテの活用	学生の学習状況その他特記事項について教員がカルテに記入し、専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにした。	各授業の担当教員が記入したカルテを専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにすることで、学生の学習状況を把握する。	各授業の担当教員が記入したカルテを専攻事務室でファイリングし閲覧できるようにすることで、学生の学習状況を把握する。
	7	ゲスト講師による講義の実施	教員が推薦する外部講師による講義である「彫刻論」を年に2回実施した。	専任教員とは異なる専門領域の講師等を招聘することで、専門的知識の補充を図り、教育研究に役立てる。	専攻学生全員で聴講するため、専攻が目指す共通概念を共有出来ることで、特に1,2年生などには作品制作の具体的な目標を持つような貴重な時間になっている。また外部講師との交流は、今後の授業運営の検討にも役立つ多くの参考になった。
	8	客員教授による特別講義の実施	金井直客員教授による特別講義を年間3回行った。	近現代彫刻史とその主要なテーマについて学びながら、彫刻領域の諸課題について、学生と教員が共に考える。	学生の中にはこれらの講義から得たことを参照しながら作品制作を行っている者もおり、とても有意義のある講義であることが確認された。
芸術学	1	授業評価アンケートの実施	前期・後期それぞれ授業評価アンケートを実施した。対象科目は、基礎実技および講義系科目を中心とし、全学で使用されているフォーマットを用い、ユニバで回答してもらった。	履修者からの評価やコメントを参考に、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行うため。	アンケート結果は専攻内で共有し、学生のニーズや要望を汲み取るよう心がけた。昨年と同様、ユニバを使用したオンライン上でのアンケートの回答率はかなり低く、自由記述欄にも積極的な意見が乏しい傾向にある。学生のニーズを把握するためにアンケートへの回答をさらに呼びかける必要を感じた。また、施設にかんじて加温器の設置を求める意見があったが、購入費用・水の入れ替えメンテナンスを考えると一般の教室では対応が難しいと判断された。
	2	専攻会議の実施	原則として隔週水曜日に1-2時間開催する。FDに関しては、教員・学生ともに少人数による教育の利点を活かし、学生一人一人の学習状況等を教員間で共有して必要なサポートについて検討する。あわせて、専攻の今後の方向性を視野にいれながら、カリキュラム内容を検討する。	専攻としての目指すべき方向性を確認しながらカリキュラムを実施し、学生の学習環境等を支援する。	今年度は主任教員が芸術資料館館長など要職に就いたことで多忙となり、定期的ではなかったものの必要に応じて開催した。2024年度の非常勤コマ削減に応じて、とりわけカリキュラムの再編に多くの時間を費やしたほか、教員の間で学生の状況について情報を共有し、それぞれの担当授業に必要な対応をした。学生に支援が必要な場合は、保健室や学習支援コーディネーター、カウンセラーを紹介した。また、学習上の困難を感じる学生について、保健室・学生支援係と専攻教員で連携し、対応に当たった。
	3	授業内容の改善	(1)「芸術学総合研究1」 1年生の必修科目「芸術学総合研究1」(通年)のうち前期の前半7コマの授業を、いわゆる初年次教育の内容に改変した。キャンパスを歩いて案内したり、図書館の使い方を実地で教えたり、学生生活上の注意や就職・進学についてレクチャーをするなど、専攻教員が数回ずつ分担した。後半8コマは美学・西洋美術史・日本美術史・現代アートの学び方について担当教員が1コマずつ話し、他、全学年が集合して話し合う茶話会のような場を設定した。なお後期は学生が順に研究発表をする内容で実施した。 (2)「プロジェクト研究」 3年生の必修科目「プロジェクト研究」はこれまで学生が卒業論文に沿った形でテーマを設定し、教員の指導を受けながらレポートを最終的に提出する形で実施してきた。学生たちの多様化する学習姿勢や環境、研究の進み具合に応じたため、一律レポートでの成績評価を廃し、学生に応じて教員が個別に指導をして研究成果を評価する、より柔軟な内容へと変遷した。	(1)新入生がスムーズに大学生生活に馴染み、大学の勉学に取り組むやすくなるため。 (2)個々の学生に応じた柔軟な教育内容を実施するため。	(1)概要の通り実施できた。さらに「芸術学総合研究1・2・3」では前期・後期の冒頭に保健室スタッフに来てもらい、健康診断やメンタルヘルス・ハラスメント等の相談先について話し合ってもらった。また、卒業論文の中間発表会へなるべく在学生の出席を促し、茶話会に加えて少しでも学年を越えた交流や学び合いが生じよう工夫した。 (2)従来通り研究成果をレポートにまとめて提出する者、ゼミ形式で話し合う者の形で本の要約を提出する者、論文要約を作成して提出・添削する者など、一人ひとりに応じた個別教育を実施することができた。その分、成績評価には教員同士のすり合わせが必要であり、専攻会議内で相談をした。
デザイン	1	専攻会議の実施	毎週水曜日16:00より定例のデザイン専攻会議を実施する。 デザイン専攻教員と教育研究指導員間でFD関連の情報共有を図り、授業運営や学生指導、研究活動等に活かす。 各教員から授業の実施状況やそこで発生した問題点等を情報共有し、その都度議論をすることで、今後の授業運営やカリキュラムの改善を図る。 実技授業、関連科目の内容や運営方法についての検討見直しを行う。	デザイン専攻の授業が社会の変化に柔軟に対応した授業運営となるよう、カリキュラムの刷新や充実を図る。 教員と教育研究指導員間において、学生の動向や施設・備品整備等の情報を共有し、より良い授業が行われるよう検討する。	社会環境の状況に即した効果的なカリキュラムの設定と、効率的な授業運営が出来た。 デザイン専攻の将来構想に向けた継続的な協議検討と、具体策の提示・実施をすることが出来た。 学生の動向・出席状態等について、個人情報に留意しながら教員・教育研究指導員間で適切に共有し把握することが出来た。
	2	新カリキュラムの継続的な運営	社会のニーズや問題点を解決するための「社会連携プロジェクト」の実施によって、公的・社会的に資する具体的なデザインの取り組みを充実させる。 起業家精神を涵養するための「アントレプレナーシップ教育」の実施によって、「自身の能力を社会の仕事に生かす」能力を発掘し、卒業後の進路を拡大させる。 R4年度1年生を対象に実施した実技新カリキュラムについて、引き続き適切な運営を図る。	社会や時代の変化に柔軟に対応し、公的・社会的な課題や問題に取り組む解決ができる人材の育成を目的とする。 基礎から応用に至るデザイン実技と理論構築の力を養い、より専門的かつ実践的な課題を行う中で、様々な状況に対応できる能力を育む。	社会連携プロジェクトが継続して実施されることにより、学生が「社会連携」「社会貢献」という視点によって課題に取り組む意識が醸成された結果、卒業制作のテーマ設定に活用される例が見られた。 アントレプレナーシップ教育が継続して実施されることにより、学生の意識に「起業」という選択肢が芽生えた結果、就職活動の意味をより自分ごととして捉えるという効果が生まれた。 課題テーマを年間8種に分類し、課題選択枠を2種択一に絞ったことにより、2年間で包括的に課題を体験できる仕組みが成立した。
	3	就職・企業説明会の実施	就職・企業説明会を積極的に実施・運営し、学生の卒業・修了後の進路に関して幅広い情報と選択肢を提供する。 効果的な就職・企業説明会の実施のために、デザイン棟プレゼンテーションルームを会場として提供する。	卒業・修了後の進路について、より多様な選択肢を提供することで、自身の能力・志向・将来展望に合致する方向性を見出す機会となることを目的とする。 社会の要請や動向を体験的に知る機会とする。	学務課に配属された就職支援担当職員との連携を図ったことで、就職・企業説明会の実施機会と広報周知活動が飛躍的に拡大した。 デザイン棟プレゼンテーションルームを就職・企業説明会の実施会場として提供することで、学生の参加数が大幅に向上した。 就職決定率の向上や、希望職種への内定獲得など、学生の進路希望に沿った結果報告が増加している。
	4	授業評価アンケートの実施	例年と同様に、学生からの率直な授業評価や感想を得る為、前期・後期それぞれ実技授業・関連科目授業の各授業の授業評価アンケートを行う。	学生からの客観的で率直な授業に対する評価や感想を得ることにより、今後の授業運営や効果的な授業計画に役立てることを目的とする。	授業評価アンケートでは、授業に対する評価はおおむね良好、肯定的な結果が得られた。一方、コロナ禍によって変更されたアンケート回収方法の影響と推測される回答率の大幅な低下や、自由記述欄において空欄(無回答)が大多数を占めるなど、学生からの率直な授業評価や感想が得られなかったについては確認が得られていない。アンケートの内容と回収方法、またその評価をFDとして活用する仕組みについては、今後も検討の余地があると感じた。

陶磁	1	授業評価アンケートの実施	授業評価アンケートを実施。 陶磁史 I A・B 陶磁実技 I・II・III・IV A・B 陶磁論A・B	学生から率直な授業評価や感想を得て、今後の効果的な授業運営やカリキュラム改善に生かす。	達成目標について検討を行い、学生の理解力によって次年度のカリキュラムに反映していくこととした。FDアンケート以外にも自主的なアンケートを実施するなど学生たちの授業に対する要求や授業から得たことを吸い上げることでできた。回収したアンケートコメントを共有し改善を検討した。
	2	教育環境と工房環境の改善	1. 2022年度から正式にスタートした陶磁専攻3年生以上の学生が選択できる3専門コース(陶芸コース、セラミックデザインコース、芸術表現コース)に対し各2名の担当教員が協力しカリキュラムを執行。さらにコースを超えた講評など横のつながりを強化し、シナジー効果を創出。 2. 学生の制作機材(ろくろ・窯など)の拡充と修理 3. 非常勤講師の見直し。	現行の国内外の陶芸を取り巻く環境に即した教育、学生が必要とする授業内容の提供を図る。	陶芸コース、セラミックデザインコース、芸術表現コースがそれぞれのカリキュラムに対し、学生とのコミュニケーションを密にとりながら精力的に取り組むことができた。2年生の足りなかつたろくろを補充した。使用できなくなっていたカマを修理。著名なクリエーターを非常勤講師として招くことができた。結果学生たちに動機づけができ、意欲的な創作活動に繋げることができた。また、芸術学専攻とメディア専攻と連携し、「書と芸術」に関するレクチャー、学内ワークショップを実施し教育における可能性を見出すことができた。
	3	産学共同プログラムの実施	古川美術館(名古屋千種区)との連携授業の実施。大東亜窯業(株)デザインコンペティションやAtelier Roots、LIXILショールーム名古屋、富山デザイントライアル プロジェクトなどと産学共同の取り組み。	社会性を持つ現場プロジェクトやコンペティションへの参加、展示企画・実施により学生たちのものづくりに対するリアルな経験と表現の幅を広げる。	・2023年8月に開催された古川美術館為三郎館でのギャラリートイベントを目指し、芸術表現コース3年生と卒業生がコラボし、菓子器の創作を行った。古川美術館において同館所属学芸員から同館の歴史、器ともてなしについてレクチャーを受け、その後何度もアイデアや試作品のチェックを受けながら制作に挑んだ。同館喫茶部門での使用と販売と同時に作品展示企画が実現され、観覧者の高評価を得た。 ・大東亜窯業(株)と陶磁専攻が企画した「大東亜窯業デザインコンペティション」では、1年生から博士課程の学生まで6人が参加し27点のデザインが提案され、社内外の評価を得て賞が確定、授賞式が行われた。2024年度にも開催することで合意した。 ・昨年同様Atelier Rootsとはユーザーオプザベーション手法を取り入れ学生たちがデザイン制作した花器を店頭で展示販売することで流通について考える機会となった。 ・LIXILショールーム名古屋と陶磁専攻のコラボで、ショールーム展示コーナーに学生作品を展示することを企画した。参加者の作品が暮らしの新たな価値を考えるきっかけを提供することを望む。4年生から博士課程までの学生有志での参加で学生主導で企画を行っている。2023年5月から10月から2回の実施を行った。 ・富山デザイントライアル(富山県総合デザインセンターの企画)に参画した。本学デザイン専攻・陶磁専攻の3年生6名と高岡市の鋳物メーカーである平和合金が連携し作品制作を行った。学生たちのデザイン提案にもとづき、平和合金が原型や3Dデータから試作品を製造した。その成果は他の2大学(金沢美術工芸大学、富山大学)とともに東京で発表された。
	4	客員教授による講評会の実施	外館客員教授による卒業制作展での講評会を実施。	外部からの先生に講評してもらう事で客観的の視点を学ぶ。	卒業修了制作展にて評論家として専門的な知見を持つ先生から一人一人丁寧に講評を貰い、自分の作品の再認識と改善点を見つける事が出来た。
メディア映像	1	専攻会議の実施	原則毎週水曜日の16時より、定例のメディア映像専攻会議を実施した。 ・授業の実施状況や問題点などを教員間で共有し、授業運営及び計画、カリキュラムの改善を図った。 ・学生の受講姿勢について情報交換を行っていた。特に出席、課題提出状況など、問題のある学生については、教員間で情報共有を行なった。 ・FDIに関する議題については随時行い、情報の共有を図った。 ・各委員会の報告と専攻としての方針を記録し、共有する。	・授業のスムーズな運営により、受講生の学修時間を有意義にする。 ・授業時間外での積極的な学修意欲の向上。 ・学修環境の整備。 ・受講生の研究及び課題に対する習熟度の向上。 ・委員を通じた各委員会との情報共有	毎週の専攻会議にて教員間で情報共有を行うことで、授業における様々なレベルでの問題点を共有することができ、早期対応を可能とした。授業評価アンケートでは見えてこないが、学修環境を整えることや、問題に対して迅速に対応することで、授業時間外での学生の研究や課題への取り組みが向上したと見受けることができた。 ・委員を通じた各委員会との情報共有を行うことで、専攻としての意見や方針をまとめることができた。
	2	授業評価アンケートの実施	受講生の理解度及び学修状況の確認と、授業における改善点を把握するための授業評価アンケートを実施した。	・受講生の授業理解度の確認。 ・学修状況、受講生の取り組みを確認。 ・授業における問題点の把握と改善に役立てる。 ・授業の実施方法及び進行の確認(アクティブラーニングの実施など)。	実技及び関連科目に対して授業評価アンケートを実施した。全体を通して、回収率が悪く、正しく評価することは難しい。今後は、各授業担当教員や授業支援スタッフの協力を得て、授業時間内でアンケートを実施させるなど、回収率の向上に努める必要がある。母数は少ないが、各科目における設問に対し、ほぼ全てで「ややそう思う」「強くそう思う」などの高い評価を得、自由記述の設問に対してはポジティブな回答を得た。今後は、様々な回答を総合的に判断できるような評価軸を設け、授業における問題点を洗い上げることができるようしたい。
	3	グループウェア(teams)の活用による学生・教員間のコミュニケーションの円滑化	スタッフ、教員、学生間で、運営上必要な情報の共有や個別の伝達事項など、グループウェアで一元化して行っている。	・一対多や一対一など、伝達や共有内容に沿ったコミュニケーションを円滑に行うため。 ・授業資料の共有や参考資料などへのアクセスリテリの向上と、資料の保存に役立てるため。	各種のやり取りがより単純、簡潔にでき、専攻運営の負担が軽減された。また、対面の授業時間内では足りない個別のフォローが、チャットの活用によってより具体的に丁寧に行うことができ、学生の理解度を高めることができた。
	4	カウンセラーによる教員向け相談会の開催	授業内での学生の問題行動やコミュニケーションの齟齬について実例を交えながらカウンセラーに学生との対応方法について相談した。	・ケーススタディとして実際にどんな問題があるのか、どのように対応すべきかなど、教員やスタッフが対応方法や注意点を学び、実践するため。	個人や状況に応じた、複数の事例に対して対応方法を学ぶことができ、授業の進行や学生とのコミュニケーションに応用させることができた。
	5	学生別の成績開示	科目を構成する各課題の評価について、学生が具体的に知る機会がないため、課題ごとを個別に成績としてまとめ、学生に開示した。	学生が、これまでの制作に対して、客観的な評価を知ることができる。 以降の制作へ対して、フィードバックすることができる。	これまでは見る事ができなかった、個別の評価を知ることができ、学生からは、とても参考になるという声がかかれた。評価を知ることにより、教員とのコミュニケーションも活性化し、新たな課題への取り組みと、授業理解度及び習熟度の向上とつながった。

音樂學部・音樂研究科

音楽				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
作曲	1 専攻会議の実施	構成員は常勤4名の教員。議題は提出作品審査、イベント関係(提携校であるUCSD、TAMK、ヨーテボリ大学等との国際交流事業や作曲作品演奏会等)、入試問題作成(楽典、ソルフェージュ等)、中期目標など。原則隔週として、火曜日の13時より、1時間30分程度。FD関連議題は随時行い、教員内の情報共有を図る。 ①レッスン、およびクラス授業の実施状況について各教員から報告、問題点の抽出を行う。 ②学生の受講姿勢についての確認及び情報交換、意欲の向上をはかるための検討を行う。 ③関連科目についての状況確認及び今後提供する内容について意見交換を行う。 ④学生の生活上の問題、所属クラスに関する課題について検討を行う。	「専任教員全員が全学生を担当する」という本学作曲コースのポリシーの下、学生の受講状況を把握し、意欲の向上、カリキュラム実施状況等の確認を行い、出来る限り専任教員全員が全学生の状況を把握できるようにする。	今年度は臨時部会も含めて23回実施した。現在在籍する発達障害や睡眠障害などをもつ個々の学生(近年増加傾向にある)についての体調を含む状況報告を特に念入りに行い、保健室や相談員との連携も深めた。
	2 イベントの実施	「特別講座」および「作曲作品演奏会」を定例行事として行う。また機会があれば随時臨時イベントも開催する。	学生への啓発、学外や地域への貢献。	国際交流事業として、9/19~9/21にUCSD教授のLei Liang氏を招聘し、作曲個人レッスン、レクチャー・コンサート、学生によるプレゼンテーションを実施した。国際交流事業として、成本教授と小林教授が「トロー大学(アメリカ合衆国インディアナポリス)で、11月13日にレクチャーとレッスンを行った。2月21日に作曲家の小出穂子さんを招聘し、特別講座を開催した。2月24日に、ソプラノの太田真紀さんとギターの山田岳さんを招聘し、作曲作品演奏会を開催した。作曲作品演奏会に先立ち、二人の演奏者においしい、作品を書くためのレクチャーを開催した。これらの他に、教員個人の研究室で海外からのゲストを招き、いくつかのイベントが開催された。
	3 授業評価アンケートの実施	前期後期の終わりに支持された方法で学生に授業評価アンケートを実施した。	学生の事業に対する感想・要望を客観的に聞き、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行うため。	クラス授業を行なっている全科目について行った。授業内容についてはおおむね問題なく受け入れられていることを確認した。
	4 授業内容のアップデート	「楽曲分析I」の授業内容について検討し、楽曲分析Iの授業を専任教員4人で交代しながら担当し、学生が現代の音楽に早くから触れることができるようにした。	作曲コースの学生が、より効果的に将来作曲家になるための実力を伸ばして行けるようにするため。また、4人の専任教員が1年生全員の状態を早くから把握するため。	作曲コースの1年生が、現代の音楽作品に強い興味を示すようになった。また、専任教員全員が1年生全員の状態を早くから把握できるようになった。
音楽学	1 部会の実施	原則として、毎週月曜日の放課後に部会を行なっている。必要に応じて、メールでの会議も行っている。	学生・院生や授業、各委員会に関して情報交換を行い、コース内や学内のさまざまな問題を話し合うため。	学生の修学上の問題について教員間で情報を共有し、相談して指導方法を見直したり、授業のやり方を改善したりすることができた。また、2026年度の音楽学部カリキュラム改正に向けて、学生の現状を反映させた新たなカリキュラムの構築を進めた。
	2 アンケート(授業評価アンケートほか)の実施	共通のフォーマットによる「授業評価アンケート」のほか、個々の教員が担当する授業の性質に合わせて、独自のアンケートを実施している科目がある。	共通フォーマットの授業評価アンケートでは捉えきれない学生の意見をすくいあげ、すぐにフィードバックするため。	アンケートの結果から、教員(非常勤講師含む)の授業準備・指導の工夫が学生にも伝わっていることが分かった。一方で、「西洋音楽史概説のように多専攻が受講する授業では、学生の修学環境に応じて資料展開の方法などに改善の余地があることも浮き彫りになった。
	3 音楽学コロキウムの実施	この授業は、学生と教員が同じ立場で発表し、意見を交換するオープンな場をめざして開設されたもので、2021年度までは「音楽学総合ゼミ」として実施していたが、2022年度より「音楽学コロキウム」に改編された。実施は音楽学部の教員による研究発表、学生・院生による研究発表、ゲストスピーカーによる研究発表から成る授業である。音楽学コースの学部1年生から大学院博士後期課程の博士論文提出の準備をしている者までの学生、院生全員と教員全員が参加する。	多彩なゲストスピーカーによる最新の研究発表に触れつつ、教員と学生とがお互いに切磋琢磨するため。	2023年度は学生・院生による複数回の研究発表のほか、招聘講座を3回(井上さつき名誉教授「国産ピアノと漆工」、小林英樹名誉教授「時代背景を踏まえた絵画鑑賞(1)」「時代背景を踏まえたの絵画鑑賞(2)」)が行われた。図書館によるデータベース講習会もまた、音楽学コロキウムの枠組みの中で実施した。
	4 複数教員による論文指導	音楽学を専攻する学生にとって必修科目である卒業論文と修士論文の指導に関しては、複数の教員が担当し、集約的指導体制を組んでいる。	専門分野の異なる複数の教員の意見を聞くことにより、より柔軟で独創的な発想を持った学位論文を執筆させるため。	卒業論文5本が提出された。
	5 コース紀要の刊行	「愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース紀要:ミクスト・ミュージック」を2006年から刊行し、教員(非常勤講師含む)、大学院生の研究論文、それらに加えて、刊行当該年度の卒業論文、修士論文、博士論文の題目と要旨、音楽学コロキウムおよび特別講座の概要を掲載している。	大学院生、音楽学コース教員(非常勤講師含む)の研究結果、学生の学業の成果を広く知らせるため。	『ミクスト・ミュージック』第19号を刊行した。この号では、大学院生による論文1本、教員による論文1本、研究報告2本、卒業論文の要旨5本分を掲載した。学位論文の要旨を掲載することは学生にとって励みになると同時に、下級生が研究対象を決める際の参考にもなり、外部に対しては音楽学コースの広報活動にもなっている。
	6 特別講座の開催	特別講座を開催し、公開している。	学生にすぐれたゲストスピーカーによる最先端の知や芸術の世界に触れてもらうため。	2023年度は西洋音楽史を専門とし、特にオーストリアの音楽文化について研究されている小宮正安氏(横浜国立大学教授)をお招きして実施した。テーマは「チャールズ・バーニー音楽見聞録」翻訳を通じて考えたこと」であった。
声楽	1 専攻部会の開催	毎月2~3回、1回あたり2時間半程度実施。参加者は専任教員6名。主な議題は以下のとおり。 1. 各種委員会より依頼のあった懸念事項の検討 2. 専攻内での懸念事項の検討 3. 専攻の授業と行事の実施に關する事項の検討 4. 個々の学生に関する情報の共有と対応 継続審議中である12年生を対象とする「アンサンブル特講」の活用等、 カリキュラム改定に合わせて専攻委員会での検討を行っている。	・大学および専攻の運営に関わる問題を審議し、声楽専攻としての方針を決定する。 ・学生の受講状況を把握し、学習意欲の向上、カリキュラム実施状況の確認を行い、学生の状況、教員の状況を把握できるようにする。 ・個々の学生に関する情報を部会内で共有し、対応が必要な場合にはこれを速やかに、きめ細かく行う。	おおよそ各月2回開催した。特に当年度は、高校時代にコロナ禍にいた学部生が履修するクラス授業の授業運営、発達障害が疑われる学生、心身不調で欠席しがちな学生等の指導方法についての問題を部会で共有し、担当する非常勤講師への情報共有とお願いをした。 一方、魅力あるクラス授業の新設に向けて、授業内容の協議をはじめている。
	2 授業評価アンケートの実施	前期ならびに後期の終わりに、クラス授業を中心に授業評価アンケートを実施した。	学生から評価・意見を参考にし、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行う。	履修学生たちは積極的に取り組んだと回答しており、授業の内容にも関心や意欲が高まったとの回答も多くの専門性の能力向上に役立ったという意見も多く見られた。
	3 舞台美術会議の実施(学内外のコラボレーション)	大学オペラ公演に向けて、大学院「オペラ総合演習」担当教員(専任2名、演出担当非常勤講師)ならびに舞台美術担当教員(美術学部教員)、外部関係者による会議を実施。 ●大学オペラ公演の公演方針 ●公演形態 ●具体的な舞台の見取り図を踏まえ、舞台美術プランを決定	●安心安全な公演にする。 ●舞台美術のアイデアを具体的ななかたちにしていくこと、かつ演出上の諸問題を舞台上の道具配置等の検討により解決していく。	本年年度の演目、ヘンデル作曲のオペラ(アルチーナ)では、舞台美術をテレビゲームの画面をプロジェクターで背景映し出し、ロールプレイングのゲームの世界観の中でお客様に提示することでわかりやすく物語の世界に引き込むことができた。素晴らしい舞台を作り上げることが出来た。実際に出演した学生だけでなくお客様からも多くの評価をいただくことができた。
	4 舞台衣裳制作での協力(他大学とのコラボレーション)	学部4年「オペラ研究」において、名古屋学芸大学メディア造形学部ファッション造形学科と協力、芸芸大学の学生は舞台衣裳を制作し、本学学生はその衣裳を着て試演会の上演を実施。双方の大学の学生たちが、衣裳合わせや採寸時、演出、歌手、衣裳製作側がお互いに意見交換をし、歌壇時に動きやすく、歌いやすく、かつ演出効果、舞台効果を上げる衣裳づくりを目指した。	二大学間での協力により、双方の授業での成果発表の場とする	本年年度の演目、モーツァルト作曲のオペラ(コジ・ファン・トゥッテ)では、両大学共に実践的な授業を行なうことが出来、またオペラの内容に沿った衣装作りや、本格的な衣裳を着ての歌唱など、素晴らしい試演会を行なうことが出来た。引き続きこのようなコラボレーションを続けていきたい。
	5 特別講座の実施	年1回特別講座を実施。学内外の講師によって、演奏会、講演、公開レッスン等を行う。本年度は12月6日に室内楽ホールにて、ヴォイオラ・ダ・ガンバ、バロックチェロ奏者であるペリクリ・ビエー氏とソプラノの神谷美穂氏によるヘンデル歌劇「アルチーナ」レチタティーヴォとアリアの演奏実践という特別講座を実施。	国内外で活躍する現役歌手の演奏と、その体験談を聞き、学生たちの今後に役立てる。	大学オペラで上演することとなったヘンデルの「アルチーナ」のレチタティーヴォとアリアの実践のためにバロック音楽のスペシャリストであり世界中で演奏されているペリクリ・ビエー氏(ヴォイオラ・ダ・ガンバ、バロックチェロ)と神谷美穂氏(ソプラノ)をお迎えし、公開レッスンの形でご指導いただいた。普段歌い慣れないバロックの作品の演奏法をわかりやすくご指導いただいたことは学生にとって大変有意義なことであった。模擬演奏に対する実践的なレッスンも大変素晴らしい。
ピアノ	1 コース部会	定期的開催されるピアノコース部会にて、コース全体としての教育目標のブラッシュアップ、現状の率直な把握や点検、個々の様々な授業に関する課題分析等、不断に行っている。	学生/受験生の状況や社会の要請等に敏感に対応しつつ、同時にコースとしての根本的な教育研究目標は堅持し、調和を図り、時代に真の価値を生むコースとして発展していくため。	部会の構成員も次第に入れ替わる中で、「目的」に述べた内容に即し、良いものは引き継ぎ、変革すべき点は踏み込んでいけるよう、様々な議論と取り組みを行っている段階である。
	2 特別講座開催	イタリア人ピアニスト、エンリコ・エリジ氏を招き、リサイタルおよび公開レッスンを開催した。	海外の優れた音楽家の演奏と指導を身近に経験することにより、学生の視野を広げ、豊かな感性を涵養する。	素晴らしいコンサートとマスタークラスとなり、学生からも良い刺激となったと好評で、有意義な講座となった。
	3 授業評価アンケート	「ピアノ合奏AB」、「ピアノ指導法AB」、「伴奏法・器楽曲AB」について実施した。	ピアノコース学生の大多数が履修する科目であり、コース学生の意識や現状を分析し、授業改善に役立てるため。	全体的には授業への取り組みや満足度について肯定的評価が強いと判断できたが、細かい部分での改善は今後の課題である。
	4 演奏機会の創出	ピアノコース独自の「新進演奏家コンサート」、「愛知県立芸術大学学生によるピアノコンサート」を企画・開催した。	優秀な学生に学外での演奏機会を与えることにより、教育内容のさらなる向上やモチベーションの増進等を図る。	学外ホールでの演奏経験は、出演学生にとって非常に貴重なものとなった。また、ピアノコースの教育研究を地域社会に還元する、重要な社会連携の場ともなっている。

1	個人レッスン 実技試験 室内楽試験 修了演奏	弦楽器コースでは、入学時及び各学年末に師事したい教員の希望を取った上で担当を決定し、週1回マンツーマンで丁寧な指導を行っている。 演奏による試験は、専攻実技及び室内楽を前・後期各1回ずつ行っており、外国人客員教授を含む弦楽器コース専任教員全員と多数の非常勤講師が共に学生の演奏を聴き、採点を行う。 試験を公開する利点として、試験官以外に多数の学生(聴衆)がいる前で演奏することで、より緊張感を持つことができる点、他の学生の演奏を聴くことで多くを学ぶ点などが挙げられる。試験の公開や、試験後の講評は今後も継続していく予定である。	演奏を聴けば、その学生が担当教員からどのような指導を受けているのかが判り、又、担当以外の教員による採点や試験後の講評によって、普段のレッスンは異なる視点からの意見や解釈等を知らずもでき、学生自身はもちろん、担当教員にとっても大変勉強になっている。	入学時より卒業・修了まで、学生一人一人が成長していく様子を弦楽器専任教員全員で見守り、伸び悩む学生に対しては、担当でなくとも必要に応じて助言や指導を行っている。教員全員が各学生の氏名やその演奏をすべて把握できているのは、規模の大きい本学ならではの利点であり、強みと言える。
2	アンサンブル系 授業 室内楽 学部1・2年次必修 3・4年次選択 修了課程 選択 弦楽合奏 同上 オーケストラ 学部2年以上必修 修了課程 選択	「室内楽」「弦楽合奏」「オーケストラ」等のアンサンブル授業に於いては、効果的に授業を行う為、下記の様な体制で指導を行っている。 (室内楽) 学部では、1グループを教員1名ないし2名が通年で担当し、じっくりと時間を掛けて指導に当たっている。学部1年次に於いては特殊な編成の室内楽グループの場合に教員2名という体制を取っており、グループを室に分け、2名の教員が毎週交代で指導すると共に、他グループのレッスンを見学させている。また室内楽経験の浅い新入生が、複数の教員から多角的な指導を受けると同時に、他グループの授業も見学する事で、アンサンブルの基礎を客観的に学べる形態を取っている。 修了課程に於いては、「室内楽1」「室内楽2」が開講されている。「室内楽1」は、より専門的な指導を目的に、1つのグループに対し弦楽器領域複数の教員が並行して指導を行い、「室内楽2」は、全領域の教員の中から師事したい教員を学生の方から指名し、レッスンを受ける事が出来るという画期的なカリキュラムになっている。 (弦楽合奏) 室内楽を大型にしたような緻密かつ音楽的なアンサンブルを目指し、複数の教員で分業を担当、合奏では指揮者以外の教員も適宜アドバイスをし、指導を行っている。令和5年度は花崎薫教授(チェロ)のリストとしてご参加頂き、学生と共演する形で作品研究もを行い、その成果を定期演奏会で披露した。 (オーケストラ) 国内外の第一線で活躍する指揮者のもとで行われる、プロのオーケストラ同様のリハーサルが授業の基本であり、そこへ経験豊かな弦楽器・管打楽器教員が指導スタッフとして加わっている。	複数の教員で授業を行う科目では、学生にとつての利点は勿論のこと、教員同士も互いの指導方法やその成果を見る事が出来、自身の授業法改善の参考になっている。	弦楽器コースではアンサンブル教育に非常に力を入れているが、室内楽・弦楽合奏共に、選択履修となる3年次以降も受講希望者は非常に多い。 学年が進むにつれ、学生達のアンサンブル能力は明らかに向上し、目に見えて成長していくことから、現在の指導方法が大変効果的である事が分かる。 授業の成果発表として令和5年度は下記の演奏会を行った。実施した演奏会はいずれも非常に高い評価を得ており、今後も継続していく予定である。 (室内楽) 2024年2月21日「第22回室内楽の夕べ」(電気文化会館ザ・コンサートホール) (弦楽合奏) 2024年1月17日「第18回定期演奏会」(三井住友海上しらかわホール) (オーケストラ) 2023年7月7日「小中学生思い出コンサート」(みよし市) 2023年7月9日「オーケストラ特別演奏会」(三重県津市・三重県総合文化センター文化会館大ホール) 2023年11月19日「第34回定期演奏会」(愛知県芸術劇場コンサートホール) (三井住友海上しらかわホール)
3	外国人客員教授の招聘、学外講師による講座等	令和5年度も、引き続き長期外国人客員教授としてF.アゴスティーニ氏(Vn.)にご指導頂き、弦楽器専任教員を中心とした室内楽演奏会でも共演頂いた。 2024年3月8日 「室内楽の響演Ⅲ」(電気文化会館ザ・コンサートホール) 特別講座開講 2024年2月14日 インゴルフ・トゥルバン氏(Vn)ミュンヘン音楽演劇大学教授	通常、指導を受けている教員以外の演奏家・指導者によるレッスンを受講することで、別の視点から多くを学ぶことが出来る。 弦楽器コースでは、学生が年間を通して日本人専任教員と外国人客員教授の両方に隔週で師事することが出来る。独自のハーフシステムを採用している。	左記「室内楽の響演Ⅲ」演奏会は、いずれも大変好評であったが、その他にも、ルトヴィート・カンタ非常勤講師によるチェロ公開レッスンを行った。 特別講師による指導や演奏を聴講し、適宜質疑応答等を行うことは、受講した学生自身は勿論、聴講している学生や教員にとっても大変勉強になり、次年度以降も引き続き行っていく予定である。
4	専攻会議	教員間の情報共有や授業改善を議題とし、前・後期合わせ14回の部会を行った。更に、メールでも頻りに連絡を取り合い、報告事項の共有や授業を円滑かつ有効に進める為の意見交換等を常に行っている。	専任教員が、全学生の勉学・生活の両面について現状を把握できるようにする。	全学生の受講状況や生活面に関する情報を共有し、担任が否かに関わらず必要に応じて学生の相談に応じられる等、全教員が一丸となり、精神面も併せてケアをしながら指導に当たっている。 近年、大学生活の中で精神的バランスを崩す学生が増える傾向にあるが、加えて、長期に亘るコロナ禍の影響で大人気のアンサンブル授業に於いて普段以上にストレスを感じ、授業への出席が難しくなる等、更に注意を払わなければならないケースが増加している。
5	授業評価アンケートの実施	前期/オーケストラ授業について、UNIPASシステムを利用したオンラインアンケートを実施した。 回答率は17.8%であった。 学生からのコメントの中には、授業時間の長さに関することや、音楽堂の演奏環境などの点の問題提起があった。	弦楽器コースが特に力を入れているアンサンブル授業が、学生にとって望ましい形で進められているかどうかを見る。	以前、アンケート用紙を配布・回収する形で実施していた際は回答率がかなり高く、学生の授業に対する感想や、参考となる意見も聞く事が出来、有意義であったが、UNIPASの実施となって以来、各段に回答率が下がった為、本アンケート結果のみで全てを結論付け、今後の改善策への参考とすべく大変困難であると悩むざるを得ない。
6	愛・知・芸術のり弦楽五重奏団 その他	2008年に弦専任教員5人で「愛・知・芸術のり弦楽五重奏団」を結成以来、積極的に活動を行っている。3年間に亘るブラームス室内楽全曲演奏プロジェクト終了後も、客員教授や他専攻教員を交えての演奏会を行い、教員としての一面と音楽家としての一面を両立する重要性を感じながら、教員同士でのアンサンブルを通じて刺激を受け合っている。 花崎薫教授がプロデュースされた「室内楽の響演Ⅲ(全3回シリーズ)」は大変好評であった。弦楽器の教員だけでなく、ピアノ、作曲、管打楽器の教員との演奏交流を通じて、より幅広い時代の作品に触れながら、緻密なアンサンブルを築く面白さを体感できることは本学の唯一無二の強みである。	教員が音楽に取り組む際の姿勢や、様々な角度から学生に示す。綿密なリハーサルを行い、本番で演奏する姿を間近で見せる事により、普段のレッスンだけでは伝えきれない音楽に対するプロ意識等を学生に教えることが出来る。更に、学生との共演も大変大切な指導手段の一つと考えており、来年度以降も積極的に続けていく予定である。	これらの活動により、教員と学生間は勿論、教員同士でも互いに良い刺激を受け合い、音楽界の情報交換も出来る等、広義的な意味で授業での指導力向上に繋がっていると確信している。
1	管打楽器コース部会	定期的な管打楽器部会を開催しています。開催日時は時によって異なりますが、木曜日の12時から14時半までが多いです。 部会では以下のような活動を行っています： ①各委員会の情報共有や部会全体での意見交換を行います。 ②オーケストラやウィンドオーケストラの出演者を決定する際に、木管楽器、金管楽器、打楽器などの学生のレベルや相性を②慮します。 ③苦勞している学生と面談を行います。 ④管打楽器コースのイベントを毎年開催しています。これらのイベントは、若い音楽家の育成と愛知県民との交流を目的とし、日進市の教育委員会との協力のもと、2年連続でコンサートをプロデュースしています。また、管打楽器コースの学生のために、毎年芸術講座も開催しています。これらのイベントの企画はすべて部会で立てています。	コース内のコミュニケーションを効率良くするために定期的に部会をしている。お互いの意見を聞き合ったり、思っている事を自由に出せるような環境を作る事が目的である。	毎週さまざまな課題が出るが、コースの専任教員5人で力を合わせてうまく運営できていると思う。
2	非常勤講師、コマ数、カリキュラム	非常勤講師に回せるコマ数が変動する。利用可能なコマ数を毎年パフォーマンス良く振り分けるのに大変苦労している。管打楽器コースには12種類の専攻楽器が存在している。各楽器の実技レッスンの担当教員に専門家を呼ぶ必要がある。それ以外にもウィンドオーケストラの指揮者など室内楽のトレーナーを非常勤講師に指導して頂いている。現状ではコマ数が足りていないのに減少が続く予想。この大学での高い教育水準を維持しつつ、利用可能なリソースを最適に活用する方法を常に検討する必要がある。具体的には、コースの学生数を適切に管理し、非常勤の先生に割り当て時間数(コマ数)を適度に制限することが重要である。	変動するコマ数を利用して管打楽器コースの教育レベルを保つ事。	毎年変動する限られたコマ数を効率的に分配するのは難しい。しかし、5人の専任の教員がそれぞれの負担を増やし、部会で慎重に議論を重ねることで、コース内の学生に対して高い教育水準を維持できていると信じている。
3	卒業、修了後の進路に関して	卒業見込みの4年生と修了見込みの大学院2年生の進路を把握するために、全員の面談を実施している。新型コロナウイルスの影響で、過去数年間はオーケストラや吹奏楽団の入団オーディションが少なかったが、去年からはかなり増えている。 音楽大学に進学し、プロ楽団に入ることを目指す学生は多いが、実際に入団オーディションに成功できる人は限られている。学生の目標と現在のレベルを考慮し、一緒に進路の計画を立てる。	卒業生が全員進んでいる現在の音楽業界で成功できるように一人一人に合っている道を見つける事。	学生のレベルや将来の目標は一人一人異なるが、可能な限り全員の将来のマスタープラン作りを支援する。
4	アンケートの実地	学年の始めに、管打楽器コースは新入生全員と面談を行う。出身地や愛知での居住地について質問し、また毎日の通学手段についても尋ねる。これにより、各学生の背景を理解することができる。 さらに、才能ある受験生を引き付けるために、なぜ愛知県立芸術大学を選んだのか、大学のどの点が魅力的でどの点がそうでないのかを質問する。最後に、これからの大学生活について特別な懸念があるかどうかを尋ねる。 修了する大学院生のアンケートを毎年とっている。内部から上がってきた学生の学部4年間と大学院の2年間の経験を尋ねる。良かったと思った事と教員へのアドバイスも参考にして教育体制を調整する。外部から入学してきた学生に本校と学部卒業した大学の違いを尋ねる。県芸、管打楽器コースは他の大学と比べてどうか尋ねる。 授業アンケートの結果を見て授業内容を考え直したり、学生の意見を意識して微調整したりする。アンケートで一番多いコメントは設備に関する苦情。 学年と関係なく学生が困っていると感じた場合は、呼び出して話をする。	学生の目線から見て管打楽器コースの良いところと良いところを知るべきである。	アンケート調査の結果を踏まえ、学生の不安や安心感を理解し、的確に対応できたと自負している。
4				

教 養 教 育 科 目

教養				
専攻 コース	項目	概要	目的	結果
教養	1 教養等会議	毎月教養等の教員が集まり会議をしている。また、メール等で審議などをする場合もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学および教養等教育の運営に関わる事項の審議および情報共有 ・学生指導に関する情報共有 ・授業に関する情報共有 ・その他教養教育等にかかわる内容についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・教養等教育に関わる運営について大きな問題なく運営することができた。 ・配慮が必要な学生などに関わる対応について方針を決めることができた。 ・非常勤講師の授業に関してその改善に関わる情報共有ができた。
	2 授業評価アンケート	多くの講義系科目で、学生の授業評価アンケートを実施し、その結果を踏まえ、改善策を検討する。	・授業改善	おおむね、多くの授業が肯定的な評価を受けていることが確認することができた。気になるコメントがある場合、その授業担当者と話し合い、次回の改善に向かうことができた。
	3 各教員の工夫	公式の授業評価アンケート以外において、アンケートを定期的の実施し、改善に活かした授業があった。	・新たな授業実践の改善に向けた評価と指導の一体化	講義系の授業において対話を重視した授業を新たに実践し、その改善に向けて毎回授業後アンケートを行った。その結果、学生とともに授業をよりよくしていく取り組みとなった。

第2章 授業評価アンケート

令和5年度 授業評価アンケート

1. はじめに

本学では、大学の教育・研究の充実を図るとともに、教員の授業内容、教育方法の組織的な改善を行い、教育の質的向上を図るため、全ての学部及び研究科において、ファカルティ・ディプロップメント（FD）を実施しています。その一環として、両学部の授業について、受講した学生の声を聞き、今後の授業づくりの参考とするため、「授業評価アンケート」（以下「アンケート」）を導入しました。

平成21年度から、FD専門委員会においてアンケートの設問内容を一新し、「講義系授業」と本学の特長である「実習系授業」の2種類のアンケートで実施しています。

この2種類のアンケート以外にも教員が独自にアンケートを作成・実施し、学生の声を授業づくりの参考としています。

2. アンケートの実施

前期と後期の年2回実施をしました。

前期は、令和5年7月17日（月）から8月4日（金）の3週間、後期は令和6年1月15日（月）から2月17日（金）の4週間の期間で担当教員の任意の日で実施しています。また、アンケート実施の留意点として、アンケートは匿名で行っており、大学の教育支援ポータルサイト UNNIVERSAL PASSPORT のアンケート機能にて実施し、学生が自由に回答できるように配慮しています。

実施対象の授業ですが、昨年度と同様に履修登録者5名（講義系授業は10名）以下を除く授業からFD委員の協力のもと各専攻・コースで実施授業を選択し実施しました。

実施方法は、FD専門委員会において毎回協議しています。さらに、学内の関係各位への周知活動を継続しています。

3. アンケートの報告

アンケートは実施後、学生が大学事務局に提出し、事務局において集計を行いました。集計は、回答者全員分の集計結果を本学FD委員に配付し、本学専任教員は、集計結果をもとにFD報告書にて専攻の授業評価アンケート全体の報告を作成しています。

授業評価アンケート（講義）【フォーマット】

- ・このアンケートは授業改善を目的としています、そのため、率直な回答をお願いします。
- ・アンケートの集計結果だけを担当教員につたえます。したがって、誰がどのように回答したかはわかりません。また、回答者個人の成績評価などに影響を与える事は一切ありません。

あなたはこの授業のどの程度出席しましたか

選択必須

- 100%
- 90%くらい
- 80%くらい
- 70%くらい
- 60%以下

あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

選択必須

- ほぼ時間通り
- 延長することが多い
- 開始が遅いことが多い
- 早く終わることが多い
- よくわからない

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員の説明のしかたはわかりやすかったですか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員とコミュニケーションはとれていましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教室・設備については適切でしたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

自由記述：この授業でよかった点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：この授業で要望など改善して欲しい点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：授業に関して施設整備などに対する要望などがあれば書いてください。（無回答可）

自由記述：新型コロナウイルス感染予防対応下で、この授業を受けて感じたことがあれば書いてください。（無回答可）

ご協力ありがとうございました。このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

回答

授業評価アンケート（実習）【フォーマット】

- ・このアンケートは授業改善を目的としています、そのため、率直な回答をお願いします。
- ・アンケートの集計結果だけを担当教員につたえます。したがって、誰がどのように回答したかはわかりません。また、回答者個人の成績評価などに影響を与える事は一切ありません。

あなたはこの授業のどの程度出席しましたか

選択必須

- 100%
- 90%くらい
- 80%くらい
- 70%くらい
- 60%以下

あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

授業時間は十分だと感じましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

教員とコミュニケーションはとれていましたか。

選択必須

- 強くそう思う
- ややそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

あなたの現在の力量にあった、適切な指導を受ける事ができましたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

教室・設備については適切でしたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

選択必須

- 強く思う
- やや思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- まったく思わない

自由記述：この授業でよかった点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：この授業で要望など改善して欲しい点があれば書いてください。（無回答可）

自由記述：授業に関して施設整備などに対する要望などがあれば書いてください。（無回答可）

自由記述：新型コロナウイルス感染予防対応下で、この授業を受けて感じたことがあれば書いてください。（無回答可）

ご協力ありがとうございました。このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

回答

2023年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(美術)

専攻	科目名称	授業名称	教員氏名	履修者合計	開講曜日	時限	講義/実技
日本画	日本画制作C		井手 康人	5			実習
日本画	日本画表現研究C		岡田 真治	5			実習
彫刻	彫刻実技 I A(金属)		高橋 伸行	10			実習
彫刻	彫刻実技 I A(塑造 I)		高橋 伸行				実習
彫刻	彫刻実技 II A(石彫)		中谷 聡	11			実習
彫刻	彫刻実技 II A(塑造 II)		中谷 聡				実習
彫刻	彫刻実技 III A(神田ゼミ)		村尾 里奈	9			実習
彫刻	彫刻実技 III A(高橋ゼミ)		村尾 里奈				実習
彫刻	彫刻実技 III A(森北ゼミ)		村尾 里奈				実習
彫刻	彫刻実技 IV A		竹内 孝和	8			実習
芸術学	西洋美術史概説A		小野 康子	74	水曜日	4	講義
芸術学	現代アート概説A		小西 信之	86	水曜日	5	講義
芸術学	美学A		金子 智太郎	141	月曜日	3	講義
芸術学	日本美術史概説A		本田 光子	73	火曜日	4	講義
芸術学	芸術学基礎実技 I A		小西 信之	6			実習
芸術学	美学特講 I		金子 智太郎	14	月曜日	5	講義
芸術学	日本美術史特講 II		本田 光子	31	月曜日	4	講義
芸術学	東洋美術史特講 I		藤田 伸也	34	金曜日	4	講義
芸術学	現代アート論特講 I		山本 さつき	24	月曜日	3	講義
芸術学	芸術学基礎実技 II A		小西 信之	5			実習
デザイン	デザイン・工芸論A		本田 敬	46	金曜日	3	講義
デザイン	デザイン特講A		望月 未来	32			講義
デザイン	デザイン特講 I		春田 登紀雄	25			講義
デザイン	デザイン基礎ゼミA	(隔週)	柴崎 幸次	25	金曜日	4	実習
デザイン	グラフィックゼミ	(隔週)	柴崎 幸次	5	金曜日	4	実習
デザイン	デザイン表現ゼミA	(隔週)	夏目 知道	5	金曜日	4	実習
陶磁	陶磁実技 I A		田上 知之介	10			実習
陶磁	陶磁実技 II A		田上 知之介	10			実習
陶磁	陶磁実技 III A	(デザイン)	田上 知之介	3			実習
陶磁	陶磁実技 III A	(芸術表現)	梅本 孝征	3			実習
陶磁	陶磁実技 IV A	(陶芸)	佐藤 文子	3			実習
陶磁	陶磁実技 IV A	(芸術表現)	梅本 孝征	3			実習
陶磁	陶磁実技 III A	(陶芸)	佐藤 文子	4			実習
陶磁	陶磁実技 IV A	(デザイン)	田上 知之介	4			実習
メディア	メディア映像基礎実技A		森 真弓	10			実習
メディア	メディア映像実技 II A		森 真弓	10			実習
メディア	メディア映像演習A		有持 旭	10	金曜日	4	実習
メディア	メディア映像演習B		森 真弓	10	月曜日	4	実習
メディア	映像音響演習		森 真弓	10			実習
関連	図学・図学及び遠近法		大島 淳子	29	木曜日	5	講義
関連	美術解剖学	(隔週・偶数週)	布施 英利	78	金曜日	3	講義

2023年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(音楽)

専攻・コース	科目名称	授業名称	教員氏名	履修者数	開講曜日	時間	講義/実技
作曲・学部	ソルフェージュA		安野 太郎 他	103	月	1~2	講義
	ソルフェージュB		安野 太郎 他	10	月	1~2	講義
	ソルフェージュC		安野 太郎 他	83	月	1~2	講義
	ソルフェージュD		安野 太郎 他	7	月	1~2	講義
	スコアリーディングA		小井 洋明	31	火曜日	2	実習
	楽曲研究A		倉地 佑奈	19	水曜日	2	実習
	和声ⅠA		岩本 渡	21	火曜日	5	実習
	和声ⅠA		板倉 ひろみ	17	火曜日	1	実習
	和声ⅠA		山本 裕之	16	火曜日	1	実習
	和声ⅠA		鈴木 宏司	17	火曜日	1	実習
	和声ⅠA		久留 智之	18	火曜日	1	実習
	和声ⅡA		岩本 渡	18	火曜日	2	実習
	和声ⅡA		板倉 ひろみ	19	火曜日	2	実習
	和声ⅡA		山本 裕之	24	火曜日	2	実習
	和声ⅡA		小林 聡	25	火曜日	2	実習
	和声ⅡA		久留 智之	16	火曜日	2	実習
	楽式論A		高山 葉子	27	水曜日	4	講義
	楽式論A		高山 葉子	20	水曜日	5	講義
	楽式論A		武野 晴久	19	水曜日	3	講義
	対位法A		岩本 渡	11	火曜日	4	講義
対位法A		小櫻 秀樹	13	火曜日	4	講義	
対位法A		小井 洋明	25	火曜日	4	講義	
コンピュータ音楽A		アム セチュン トニー	33	火曜日	1	講義	
音楽学・学部	西洋音楽史概説A		七條 めぐみ	107	火曜日	3	講義
	楽書講読(独)A	必修の選択A、	小沢 優子	11	水曜日	2	講義
	音楽療法		村瀬 香	75	金曜日	2	講義
	音楽民族学概論		エドガー・ポーブ	35	水曜日	2	講義
	楽書講読(英)ⅠA/ⅡA		エドガー・ポーブ	12	水曜日	1	講義
声乐・学部	オペラ基礎A		古川 真紀	27	木曜日	2	実習
	オペラ重唱A		森寿美・初鹿野剛	27	火曜日	4	実習
	合唱Ⅰ~ⅢA	(女)	永 ひろこ	78	金曜日	5	実習
	合唱Ⅰ~ⅢA・重唱A	(男)	辻 博之	42	金曜日	2	実習
	合唱A		永 ひろこ	62	月曜日	3~4	実習
	音楽芸術言語(伊語)ⅠA		水野 留規	15	火曜日	4	講義
	音楽芸術言語(独語)ⅠA		マーティン・ヴィルヘルム・ニアス	10	火曜日	1	講義
声乐・大学院	特殊研究(声乐領域13)		小原 啓楼	19	水曜日	2	講義
	特殊研究(声乐領域17)		中巻 寛子	15	火曜日	3	講義
	重唱		辻 博之	9	金曜日	3	実習
ピアノ・学部	ピアノ合奏A		鈴木謙一郎	25			実習
	ピアノ指導法A		北住 淳	25	火曜日	3	実習
	伴奏法・器楽曲A		中尾 純	25	水曜日	1	実習
弦・学部	オーケストラ(弦)Ⅰ~ⅣA・A		花崎 薫	57	木曜日	1	実習
管打・学部	管楽合奏Ⅰ~ⅣA・A		矢澤 定明	94	水曜日	3~5	実習
	管打学基礎ⅠA		井上 圭	20	金曜日	2	実習
	管打学基礎ⅡA		杉浦 邦弘	19	金曜日	2	実習
	合奏A		長瀬 正典	26	木曜日	3	実習
	室内楽(管打)ⅠA		深町 浩司	20	木曜日	1	実習
	室内楽(管打)ⅡA		深町 浩司	20	木曜日	1	実習
	室内楽(管打)ⅢA		深町 浩司	18	木曜日	2	実習
	室内楽(管打)ⅣA		深町 浩司	22	木曜日	2	実習
	オーケストラⅠ~ⅣA・A	(管打楽器)	橋本 岳人	93	金曜日	3~5	実習
管打・大学院	室内楽1(管楽器領域)A		深町 浩司	11	木曜日	2	実習

2023年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(教養教育)

科目名称	授業名称	教員氏名	合計	開講曜日	時間	講義/実技
哲学A		内藤 理恵子	109	金曜日	3	講義
外国文学A		内田 智秀	52	水曜日	4	講義
西洋史A		小島 崇	79	木曜日	5	講義
日本国憲法	(美術・ピアノ・弦・管打)	築山 欣央	109	火曜日	5	講義
心理学A		三宮 敦生	110	水曜日	5	講義
人類学A		加藤 英明	78	木曜日	4	講義
数学A		加納 成男	86	月曜日	5	講義
基礎物理学A		三浦 裕一	27	火曜日	4	講義
身体運動演習ⅠA～ⅡB		幸田 律	25	木曜日	4	実習
身体運動演習ⅠA		武山 祐樹	40	木曜日	5	実習
身体運動演習ⅠA～ⅡB		山本 祐実	24	木曜日	3	実習
身体運動演習ⅠA		小野 昌子	18	水曜日	5	実習
スポーツ・健康科学A		石垣 享	21	水曜日	4	実習
異文化コミュニケーションA		井上 彩	20	月曜日	5	講義
社会学ⅠA		石橋 康正	72	月曜日	5	講義
社会学ⅡA		石橋 康正	60	金曜日	5	講義
宗教学A		内藤 理恵子	115	金曜日	4	講義
西洋の古典文芸		水野 留規	53	火曜日	5	講義
コンピューター基礎Ⅱa		清道 正嗣	35	火曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅱa		鈴木 剛	36	木曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅱa		清道 正嗣	34	火曜日	4	講義
コンピューター基礎Ⅱb		清道 正嗣	31	月曜日	5	講義
コンピューター基礎Ⅱb		鈴木 剛	31	木曜日	4	講義
西洋演劇論		大塚 直	74	水曜日	4	講義
基本体育A(火5)		石垣 享	20	火曜日	5	実習
基本体育A(火3)		石垣 享	26	火曜日	3	実習
基本体育A(火4)		石垣 享	35	火曜日	4	実習
英語初級ⅠA		ナイレー・アン・キーナン	23	月曜日	4	講義
英語初級ⅠA		ナイレー・アン・キーナン	25	月曜日	3	講義
英語初級ⅠA		赤塚 麻里	35	月曜日	4	講義
英語初級ⅡA		ナイレー・アン・キーナン	24	水曜日	2	講義
英語初級ⅡA		井上 彩	25	水曜日	3	講義
英語初級ⅡA		木下 薫	22	水曜日	3	講義
英語初級ⅡA		井上 彩	11	水曜日	4	講義
英語中級ⅠA		杉浦 千早	34	月曜日	3	講義
英語中級ⅠA		井上 彩	25	月曜日	4	講義
英語中級ⅠA		杉浦 千早	28	月曜日	4	講義
英語中級ⅡA		ナイレー・アン・キーナン	70	水曜日	3	講義
英語上級ⅠA		赤塚 麻里	16	月曜日	5	講義
英語上級ⅡA		スミス マット	19	木曜日	4	講義
ドイツ語初級ⅠA		大塚 直	30	月曜日	3	講義
ドイツ語初級ⅠA		橋本 亜季	39	月曜日	4	講義
ドイツ語初級ⅡA		大塚 直	39	水曜日	2	講義
ドイツ語初級ⅡA		山本 弘之	29	水曜日	3	講義
ドイツ語中級ⅠA		大塚 直	16	火曜日	4	講義
ドイツ語中級ⅡA		シュトララー ヤン ゲリット	15	火曜日	3	講義
ドイツ語上級ⅠA		大塚 直	18	火曜日	3	講義
ドイツ語上級ⅡA		シュトララー ヤン ゲリット	12	火曜日	4	講義
フランス語初級ⅠA		フロラン・ベリエ	18	月曜日	4	講義
フランス語初級ⅠA		水野(角田) 延之	21	月曜日	4	講義
フランス語初級ⅠA		数森 寛子	13	水曜日	2	講義
フランス語初級ⅡA		フロリアン・エルゴット	13	水曜日	4	講義
フランス語初級ⅡA		フロリアン・エルゴット	45	水曜日	3	講義
イタリア語初級ⅠA		水野 留規	10	月曜日	5	講義
イタリア語初級ⅠA		ロムアルド・パローネ	30	月曜日	3	講義
イタリア語初級ⅡA	(音楽)	バベッテ・マシミアアーノ	31	水曜日	2	講義
イタリア語初級ⅡA	(美術)	ロムアルド・パローネ	10	火曜日	3	講義
イタリア語中級ⅡA		バベッテ・マシミアアーノ	30	水曜日	3	講義
美術科教育法A		杉林 英彦	30	金曜日	4	講義
美術科教育法B		高橋 承一	25	木曜日	5	講義
音楽科教育法B		柴田 篤志	52	月曜日	4	講義
道徳教育指導論	(美術・音楽)	三品 陽平	37	月曜日	3	講義
特別活動論	(美術・ピアノ)	清水 克博	62	木曜日	3	講義
特別活動論	(ピアノ以外の音楽)	清水 克博	57	木曜日	4	講義
教育相談	(ピアノ以外の音楽)	日下 美輝子	58	月曜日	3	講義
教育原理	(美術・ピアノ)	三品 陽平	65	水曜日	5	講義
教育原理	(ピアノ以外の音楽)	三品 陽平	60	火曜日	4	講義
教育方法・総合的な学習の時間の指導論	(美術・ピアノ)	宮地 祐司	63	火曜日	5	講義
教職ICT活用論	(前半/音楽・作曲・音楽学)	高橋 承一	29	木曜日	3	講義
教職ICT活用論	(後半/弦・管打)	高橋 承一	29	木曜日	3	講義
博物館概論		田中 善明	15	水曜日	4	講義
博物館資料論		山口 万里佳	21	火曜日	3	講義
博物館情報・メディア論		鯨井 秀伸	19	水曜日	3	講義
博物館教育論		藤島 美菜	17	木曜日	4	講義
考古学		長田 友也	41	木曜日	3	講義

2023年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(美術)

専攻	科目名称	授業名称	教員氏名	履修者合計	開講曜日	時限	講義/実技
日本画・学部	日本画実技ⅠB		清水 由朗	12	0	0	実習
日本画・学部	日本画実技ⅡB		岩永 てるみ	12	0	0	実習
日本画・学部	日本画実技ⅢB		吉村 佳洋	9	0	0	実習
日本画・学部	日本画実技ⅣB(卒業制作を含む。)		岡田 眞治	11	0	0	実習
油画・学部	油画実技Ⅰ		平川 祐樹	28	0	0	実習
油画・学部	油画実技Ⅱ		平川 祐樹	23	0	0	実習
油画・学部	油画実技Ⅲ		平川 祐樹	25	0	0	実習
油画・学部	油画実技Ⅳ(卒業制作を含む。)		平川 祐樹	28	0	0	実習
油画・学部	油画特別演習Ⅰ		平川 祐樹	27	0	0	実習
油画・学部	油画特別演習Ⅱ		平川 祐樹	23	0	0	実習
油画・学部	油画特別演習Ⅲ		平川 祐樹	25	0	0	実習
油画・学部	油画特別演習Ⅳ		平川 祐樹	28	0	0	実習
油画・大学院	コンテンポラリー・アートB		平川 祐樹	5	0	0	実習
彫刻・学部	彫刻実技ⅠB(木彫)		高橋 伸行	10	0	0	実習
彫刻・学部	彫刻実技ⅠB(樹脂)		高橋 伸行		0	0	実習
彫刻・学部	彫刻実技ⅡB(造形)		中谷 聡	10	0	0	実習
彫刻・学部	彫刻実技ⅡB(テラコッタ)		中谷 聡		0	0	実習
彫刻・学部	彫刻実技ⅡB(材料研究)		中谷 聡	9	0	0	実習
彫刻・学部	彫刻実技ⅢB(中谷ゼミ)		中谷 聡		0	0	実習
彫刻・学部	彫刻実技ⅢB(村尾ゼミ)		村尾 里奈		0	0	実習
彫刻・学部	彫刻実技ⅢB(竹内ゼミ)		竹内 孝和	8	0	0	実習
彫刻・学部	彫刻実技ⅣB(卒業制作を含む。)		竹内 孝和		0	0	実習
彫刻・大学院	修士専門研究(彫刻領域)Ⅱ		森北 伸	6	0	0	実習
芸術学・学部	芸術学総合研究Ⅰ		小西 信之	7	月曜日	2	実習
芸術学・学部	芸術学総合研究Ⅱ		小西 信之	5	月曜日	2	実習
芸術学・学部	芸術学総合研究Ⅲ		小西 信之	7	月曜日	2	実習
芸術学・学部	美学B		金子 智太郎	134	月曜日	3	講義
芸術学・学部	日本美術史概説B		本田 光子	88	火曜日	4	講義
芸術学・学部	西洋美術史概説B		小野 康子	80	水曜日	4	講義
芸術学・学部	現代アート概説B		小西 信之	96	水曜日	5	講義
芸術学・学部	美学特講Ⅱ		荒川 徹	23	木曜日	4	講義
芸術学・学部	西洋美術史特講Ⅱ		小野 康子	17	水曜日	5	講義
芸術学・学部	芸術学基礎実技ⅠB		小西 信之	7	0	0	実習
芸術学・学部	芸術学基礎実技ⅡB		小西 信之	5	0	0	実習
芸術学・学部	文化財学概説		長屋 奈津子		金曜日	4	講義
陶磁・学部	陶磁史ⅠB		田上 知之介	13	木曜日	4	講義
陶磁・学部	陶磁論B		田上 知之介	10	木曜日	3	講義
陶磁・学部	陶磁実技ⅠB		田上 知之介	10	0	0	実習
陶磁・学部	陶磁実技ⅡB		田上 知之介	10	0	0	実習
陶磁・学部	陶磁実技ⅢB	(デザイン)	田上 知之介	4	0	0	実習
陶磁・学部	陶磁実技ⅢB	(芸術表現)	梅本 孝征	3	0	0	実習
陶磁・学部	陶磁実技ⅢB	(陶芸)	佐藤 文子	3	0	0	実習
陶磁・学部	陶磁実技ⅣB(卒業制作を含む。)	(デザイン)	田上 知之介	4	0	0	実習
陶磁・学部	陶磁実技ⅣB(卒業制作を含む。)	(芸術表現)	梅本 孝征	3	0	0	実習
陶磁・学部	陶磁実技ⅣB(卒業制作を含む。)	(陶芸)	佐藤 文子	3	0	0	実習
デザイン・学部	デザイン・工芸論B		本田 敬	36	金曜日	3	講義
デザイン・学部	デザイン特講B		望月 未来	34	0	0	講義
デザイン・学部	デザイン特殊ゼミB		春田 登紀雄	22	金曜日	4	実習
デザイン・学部	Webデザイン基礎/デザイン表現ゼミB	(隔週)	水津 功	16	金曜日	4	実習
デザイン・学部	写真ゼミ/デザイン基礎ゼミB	(隔週)	本田 敬	26	金曜日	4	実習
メディア・学部	メディア映像史		関口 敦仁	10	金曜日	3	講義
メディア・学部	メディア映像基礎実技B		森 真弓	10	0	0	実習
メディア・学部	メディア映像実技ⅡB		森 真弓	8	0	0	実習
メディア・学部	メディア映像演習C		森 真弓	10	火曜日	4	実習
関連・学部	デザイン史B	(隔週・奇数週)	森 仁史	46	金曜日	4	講義
関連・学部	図学/図学及び遠近法		大島 淳子	19	木曜日	5	講義
関連・学部	美術解剖学	(隔週・偶数週)	布施 英利	78	金曜日	3・4	講義

2023年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(音楽)

専攻・コース	科目名称	授業名称	教員氏名	履修者数	開講曜日	時間	講義/実技
作曲・学部	楽曲分析ⅠB		小林 聡	10	木曜日	2	実習
作曲・学部	楽曲分析ⅡB		久留 智之	5	火曜日	4	実習
作曲・学部	和声ⅠB		岩本 渡	21	火曜日	1	実習
作曲・学部	和声ⅠB		板倉 ひろみ	17	火曜日	1	実習
作曲・学部	和声ⅠB		山本 裕之	16	火曜日	1	実習
作曲・学部	和声ⅠB		鈴木 宏司	17	火曜日	1	実習
作曲・学部	和声ⅠB		久留 智之	18	火曜日	1	実習
作曲・学部	和声ⅡB		岩本 渡	16	火曜日	2	実習
作曲・学部	和声ⅡB		板倉 ひろみ	22	火曜日	2	実習
作曲・学部	和声ⅡB		山本 裕之	22	火曜日	2	実習
作曲・学部	和声ⅡB		小林 聡	24	火曜日	2	実習
作曲・学部	和声ⅡB		久留 智之	14	火曜日	2	実習
作曲・学部	楽式論B		高山 葉子	27	水曜日	4	講義
作曲・学部	楽式論B		高山 葉子	15	水曜日	5	講義
作曲・学部	楽式論B		武野 晴久	16	水曜日	3	講義
作曲・学部	対位法B		小櫻 秀樹	10	火曜日	4	講義
作曲・学部	対位法B		小井 洋明	26	火曜日	4	講義
作曲・学部	スコアリーディングB		小井 洋明	29	火曜日	2	講義
作曲・学部	コンピュータ音楽B		アム セチュン トニー	13	火曜日	3	講義
作曲・学部	楽曲研究B		守屋 祐介	20	水曜日	2	実習
音楽学・学部	西洋音楽史概説B		七條 めぐみ	103	火曜日	3	講義
音楽学・学部	音楽史特講a		森本 頼子	75	水曜日	2	講義
音楽学・学部	ポピュラー音楽概論		東谷 護	48	水曜日	3	講義
声楽・学部	オペラ基礎B		古川 真紀	28	木曜日	2	実習
声楽・学部	合唱Ⅰ～ⅢB	(女)	永 ひろこ	77	金曜日	5	実習
声楽・学部	合唱Ⅰ～ⅢB、重唱B	(男)	糸原 裕介	42	金曜日	2	実習
声楽・学部	音楽芸術言語(伊語)ⅠB		ロムアルド・パローネ	11	火曜日	2	講義
声楽・学部	音楽芸術言語(伊語)ⅡB		ロムアルド・パローネ	19	火曜日	4	講義
声楽・学部	オペラ研究B		森川 栄子	29	木曜日	3	実習
声楽・学部	合唱B		永 ひろこ	62	月曜日	3	実習
ピアノ・学部	ピアノ合奏B		鈴木 謙一郎	25			実習
ピアノ・学部	ピアノ指導法B		武内 俊之	22	火曜日	3	実習
ピアノ・学部	伴奏法・器楽曲B		武内 俊之	25	水曜日	1	実習
弦・学部	弦楽合奏Ⅰ～ⅣB、【院】弦楽合奏B(1回目・2回目)		福本 泰之	38	水曜日	3	実習
管打・学部	オーケストラⅠ～ⅣB、【院】オーケストラB(1回目・2回目)	(管打楽器)	橋本 岳人	91	金曜日	3	実習
管打・学部	管楽合奏Ⅰ～ⅣB、【院】管楽合奏B(1回目・2回目)		新田 ユリ	90	水曜日	4	実習
管打・学部	管打学基礎ⅠB		井上 圭	19	金曜日	2	実習
管打・学部	管打学基礎ⅡB		杉浦 邦弘	20	金曜日	2	実習
管打・学部	合奏B		長瀬 正典	26	木曜日	3	実習
管打・学部	室内楽(管打)Ⅰ～ⅣB		倉田 寛	79	木曜日	1	実習
管・大学院	室内楽1(管楽器領域)B	(1回目)・(2回目)	深町 浩司	7	木曜日	2	実習
打・大学院	室内楽1(打楽器領域)B	(1回目)・(2回目)	深町 浩司	1	木曜日	2	実習

2023年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(教養教育)

科目名称	授業名称	教員氏名	合計	開講曜日	時間	講義/実技
哲学B		内藤 理恵子	114	金曜日	3	講義
宗教学B		内藤 理恵子	123	金曜日	4	講義
外国文学B		内田 智秀	44	水曜日	4	講義
西洋史B		小島 崇	48	木曜日	5	講義
日本国憲法	(作曲・音楽学・声楽)	築山 欣央	34	金曜日	3	講義
心理学B		三宮 敦生	84	水曜日	5	講義
人類学B		加藤 英明	85	木曜日	4	講義
数学B		加納 成男	50	月曜日	5	講義
基礎物理学B		三浦 裕一	18	火曜日	4	講義
自由研究ゼミナール I		石垣 享	14	木曜日	4	講義
自由研究ゼミナール I		水野 留規	35	月曜日	4	講義
自由研究ゼミナール II		石垣 享	16	木曜日	5	講義
異文化コミュニケーションB		井上 彩	15	月曜日	5	講義
社会学 I B		石橋 康正	54	月曜日	5	講義
社会学 II B		石橋 康正	49	木曜日	5	講義
外国文化史		水野 留規	81	火曜日	5	講義
コンピューター基礎 II b		鈴木 剛	35	木曜日	3	講義
芸術と諸科学	(隔週)	大塚 直	69	水曜日	4	講義
コンピューター基礎 I		大嶽 麻里子	34	火曜日	3	講義
コンピューター基礎 I		大嶽 麻里子	31	火曜日	4	講義
コンピューター基礎 II c		清道 正嗣	34	月曜日	5	講義
コンピューター基礎 III		清道 正嗣	22	火曜日	5	講義
英語初級 I B		ナイレ・アン・キーナン	24	月曜日	4	講義
英語初級 I B		ナイレ・アン・キーナン	23	月曜日	3	講義
英語初級 I B		赤塚 麻里	30	月曜日	4	講義
英語初級 II B		ナイレ・アン・キーナン	25	水曜日	2	講義
英語初級 II B		井上 彩	28	水曜日	3	講義
英語初級 II B		木下 薫	22	水曜日	3	講義
英語初級 II B		井上 彩	10	水曜日	4	講義
英語中級 I B		杉浦 千早	29	月曜日	3	講義
英語中級 I B		井上 彩	29	月曜日	4	講義
英語中級 I B		杉浦 千早	29	月曜日	4	講義
英語中級 II B		ナイレ・アン・キーナン	68	水曜日	3	講義
英語上級 I B		赤塚 麻里	14	月曜日	5	講義
英語上級 II B		スミス マット	14	木曜日	4	講義
ドイツ語初級 I B		大塚 直	31	月曜日	3	講義
ドイツ語初級 I B		橋本 亜季	35	月曜日	4	講義
ドイツ語初級 II B		大塚 直	27	水曜日	2	講義
ドイツ語初級 II B		山本 弘之	27	水曜日	3	講義
ドイツ語中級 I B		大塚 直	11	火曜日	4	講義
ドイツ語中級 II B		シュトララー ヤン ゲリット	11	火曜日	3	講義
ドイツ語上級 I B		大塚 直	10	火曜日	3	講義
フランス語初級 I B		フロラン・ベリエ	21	月曜日	4	講義
フランス語初級 I B		棚橋 美知子	15	月曜日	4	講義
フランス語初級 II B		フロリアン・エルゴット	11	水曜日	4	講義
フランス語初級 II B		フロリアン・エルゴット	28	水曜日	3	講義
イタリア語初級 I B		水野 留規	10	月曜日	5	講義
イタリア語初級 I B		ロムアルド・パローネ	26	月曜日	3	講義
イタリア語初級 II B	(音楽)	パヴェッテ・マッシミリアーノ	28	水曜日	2	講義
イタリア語初級 II B	(美術)	ロムアルド・パローネ	11	火曜日	3	講義
イタリア語中級 I B		水野 留規	13	火曜日	4	講義
イタリア語中級 II B		パヴェッテ・マッシミリアーノ	24	水曜日	3	講義
身体運動演習 I A		幸田 律	8	木曜日	4	実習
身体運動演習 I A		武山 祐樹	36	木曜日	5	実習
身体運動演習 I A		山本 祐実	3	木曜日	3	実習
身体運動演習 I A		小野 昌子	15	水曜日	5	実習
スポーツ・健康科学B		石垣 享	25	水曜日	4	実習
基本体育B		石垣 享	29	火曜日	5	実習
基本体育B		石垣 享	19	火曜日	3	実習
基本体育B		石垣 享	9	火曜日	4	実習
教職入門	(音楽・ピアノ半分)	三品 陽平	67	火曜日	4	講義
教職入門	(美術・ピアノ半分)	三品 陽平	67	月曜日	5	講義
道徳教育指導論	(声楽以外の音楽)	三品 陽平	34	火曜日	5	講義
教育課程論	(声楽・弦・管打)	金箱 亜希	52	月曜日	5	講義
教育課程論	(楽・作曲・音楽学・ピアノ)	大貫 守	60	金曜日	5	講義
美術科教育法C		杉林 英彦	20	金曜日	4	講義
音楽科教育法C		柴田 篤志	52	月曜日	4	講義
生徒・進路指導論	(ピアノ以外の音楽)	内藤 春彦	55	木曜日	4	講義
生徒・進路指導論	(美術・ピアノ)	内藤 春彦	62	木曜日	5	講義
教育相談	(美術・ピアノ)	日下 美輝子	57	月曜日	3	講義
特別支援教育論		中村 扶佐子	137	木曜日	3	講義
教育方法・総合的な学習の時間の指導論	(ピアノ以外の音楽)	宮地 祐司	52	火曜日	5	講義
教職ICT活用論	(前半/ピアノ・彫刻)	高橋 承一	20	木曜日	3	講義
教職ICT活用論	(後半/彫刻以外の美術)	高橋 承一	25	木曜日	3	講義
生涯学習概論		船橋 理仁	23	木曜日	3	講義
博物館経営論		田中 善明	14	水曜日	4	講義
博物館資料保存論		長屋 菜津子	24	金曜日	3	講義
博物館展示論		北谷 正雄	22	金曜日	4	講義

第3章 FD 研修会

令和5年度 FD 研修会

(1) はじめに

愛知県立芸術大学では、大学教員の教育能力を高めるため教育課題に対応した研修会を開催した。課題として、近年、「MeToo 運動」など映画・舞台・音楽・美術現場でのハラスメント問題の顕在化や、コロナ禍における舞台・音楽・美術公演の中止による現場スタッフの離職など、芸術系現場をめぐる諸問題が一挙に噴出した。各方面と比較しても、芸術系におけるジェンダー問題が最も深刻というデータもあり、その方面において卒業生を輩出する責任のある本学においても看過できない状況である。

全学教職員でそうした危機感を共有すべく、今回は、Arts and Law (※) に派遣を依頼のうえ LINE 株式会社の饗庭東子弁護士をお招きし、“近年におけるアーティスト育成を巡る問題について”ご講演いただくとともに、情報交換を行った。

※ Arts and Law (AL) は、弁護士・弁理士・会計士など有資格の専門家の協働による、芸術・文化・創造的な活動への支援プログラムの企画運営を中心とした非営利の任意団体。

(2) 開催概要

日程：令和5年11月6日(月) 13時30分から15時30分まで

場所：新講義棟大講義室

講師：LINE 株式会社 饗庭東子弁護士

テーマ：「近年におけるアーティスト育成を巡る問題について」

【前半】 (約30分)

芸術分野における法的問題の現状についての紹介。特に、

①セクハラ、パワハラ等のハラスメントの現状

(表現の現場調査団「表現の現場ハラスメント白書 2021」等を参考に)

②契約書文化が根付いていないことによるアーティスト側の不利益な取扱いの現状

【後半】 (約30分)

・上記①②に対する最近の行政の動向

(フリーランスガイドラインの制定、フリーランス新法の制定、文化庁ガイドラインの策定の動き等)

・具体的に問題を検知した場合にどのような相談先があるのかの紹介

(3) 参加者数

教員 35 名、職員 21 名の計 56 名が参加した。

令和5年（2023）度 愛知県立芸術大学FD研修会の開催案内

FD委員長

1. 目的

芸術家、アーティスト活動を目指す本学学生の育成・教育指導にあたる教職員に向け、現在の社会情勢の中で「学生が何を身につけなくてはならないか」を学ぶとともに、教員の専門知識の更新と拡充をはかり、学生の学習効果を最大限に引き出すことを目的とします。

2. 日 時：令和5年11月6日（月）13時30分～15時30分
（特別休講日です）

3. 場 所：新講義棟（予定）

4. 対象者：本学教員（当日は出欠確認をさせていただきます）

5. テーマ：「近年におけるアーティスト育成を巡る問題について」（仮題）

6. 講 師：饗庭 東子 弁護士（Arts and Law※）（予定）

※Arts and Law（AL）は、弁護士・弁理士・会計士など有資格の専門家の協働による、芸術・文化・創造的な活動への支援プログラムの企画運営を中心とした非営利の任意団体です。

近年、「MeToo 運動」など映画・舞台・音楽・美術現場でのハラスメント問題の顕在化や、コロナ禍における舞台・音楽・美術公演の中止による現場スタッフの離職など、芸術系現場をめぐる諸問題が一挙に噴出した感があります。各方面と比較しても、芸術系におけるジェンダー問題が最も深刻というデータもあり、その方面において卒業生を輩出する責任のある本学においても看過できない状況であると危惧しています。

令和5年度FD研修会では饗庭東子弁護士をお招きし、アーティスト育成を巡る問題について学びます。

担当 学務課（神谷・秋田）

電 話 0561-64-1115（内線 275・216）

令和5年度 愛知県立芸術大学 全学FD研修会 アンケート結果

日 時: 令和5年11月6日(月)13:30~15:30

開催場所: 新講義棟(大講義室)

講 師: 饗庭東子弁護士(Arts and Law)

テ ー マ: 「近年におけるアーティスト育成をめぐる問題について～ハラスメント・契約に関する法的問題の把握と対策～」

出席者 教員 35名(85名に対して出席率41%)

職員 21名

合計 56名

アンケート対象者数: 56名(=出席者数)

アンケート回答数: 30名(回収率 54%)

1 本日のFD研修会のテーマ設定について

	人数	割合
大変よかった	7	23%
よかった	19	63%
普通	3	10%
あまりよくなかった	1	3%
よくなかった	0	0%
未回答	0	0%

2 本日のFD研修会に内容について

	人数	割合
よく理解できた	6	20%
理解できた	22	73%
普通	1	3%
あまり理解できなかった	0	0%
理解できなかった	0	0%
未回答	1	3%

3 本日のFD研修会について、ご意見・ご感想を自由にご記入ください。

- 契約に関する問題についてのお話は大変勉強になった。
大学が率先してこうした問題に取り組むことは大学の社会貢献の一つの形なのではないかと思った。
- 講師の話し方について、大切な話ばかりなので言い切って話してほしかった(自信なさげに聞こえて残念)。
- 特に契約のところは学生も知りたい内容だったのでは、特に教員向けに特化された内容とは思えなかった。
- おおよそ知っている内容だった、むしろ経験の少ない学生にこそ聞かせたいものでした。
今後ぜひ「FD」という枠を超えて講演を行って頂ければと思います。
- 契約については学生にも参加の機会があるとよいと感じた。
- とてもリアルな問題で大変勉強になりました。学生にも聞いてほしい内容だと思いました。
- フリーランス新法についての説明が良かったです。
芸術界でのハラスメントの実例を具体的に示して欲しかったです。
- 有益な情報を得られる機会としては大変よかったが、その情報をどのように活かすかという点も考えられる場であるとFD研修会としてさらに役立つ内容となるのではないのでしょうか。
- 具体的な事例をあげていただいたりして、とても理解できました。
- 非常に有意義だった。講師の方の説明、専門知識もわかりやすく理解しやすかった。今後に活かしたい。
- 日々、学生や教員に対し様々な企業から業務委託という形で依頼があり、職員としてどのような契約書の内容とすべきか、難しさを感じている。2024年に施行予定であるフリーランス新法について私自身理解できるようにしたい。
- スタートという感想。
- 学生に関する受託内容と学生保護の内容が聞きたかった。
- ハラスメント問題については以前開催されたハラスメント講習会と内容的に重複する部分が多かったと思われるが、現状「種々のハラスメントについて包括的に禁止したり、違反時の罰則等を設けた法的規制が無い」と明言して頂いたことで、今後も現状の変化を注視していかなければならないことがより明確になったと思う。
契約に関する問題については、教員のみならず、学生、卒業生とも情報を共有することができれば良いと思う。
昨日の日本音楽学会全国大会ではLaw and Fheory(音楽家のための法律相談サービス)の弁護士さんの講演がありました。
- 契約部分はもう少し学生に教える場合を考えてまとめてほしかった。
- ハラスメント部分はもはや常識のことしかなかった。ありがたいが判断が難しい例とかを扱って欲しかった。

- 法的な話中心。
- ハラスメントについては納得のいく話ばかりだった。
- アーティスト側の権利の主張についてなど参考になった。
- 新しく出来ている制度が現場レベルまで浸透するまでは少し時間がかかるのかも。
- 決まりは大切だ。しかし全て守るために増えるであろうコストが逆にアートの首をしめないか心配。
- アーティストを守る法的枠組みがどの程度あるのか、ないのか、知識を得られて意義深い時間でした。知識をつけた上でより良い教育につなげていく努力が必要と感じます。
- 具体的な相談窓口をまとめていただいで助かります。
- 総論、概論的な話ではなく、これまでであった事例とか起こった事例など具体論が中心だと、もう少しこちらに響くものがあのように思う。
- FD研修会をやるのが重要ではなくFD研修会に多くの教職員が参加すること(そういう意識を有していること)が重要。そういう意味で参加者が少ない。
- 具体的な内容で役立つと思った。
- 実際、契約書を作成する場合、適切な内容にするために組織的に相談できる窓口相談先があれば良いと思った。
- とても良かったです。ただ、パワーポイントのイラストに関してステレオタイプのイメージが多く(例、①セクハラの所)残念に思いました。
- 定期的に開催するとよい。学生向けのもあってよい。
- 内容は理解できた。一般論的な内容であったが「アーティスト育成」という観点からの話をもっとあると良かった。
- ハラスメントの問題と契約は関連付けがあるものと思うが、それぞれの個別事例を更に詳しく説明があると更に良いかと思いました。
- 今日のFD研修会は、教員・職員だけでなく学生も参加しても良いのではと思った。それはアーティスト育成をめぐる問題というよりは若手アーティストのみならずフリーランスアーティスト全般の問題だからだ。
- ハラスメントに関する研修は何度も会を重ねて受けることで身に付いて来るものであるため、今回の開催は良かったと思う。しかし内容があまりに一般的で、もう少し踏み込んだ事例を知りたかった。明らかなハラスメントは回避すべきだ。しかし、ハラスメントハラスメントについても説明してほしい。芸術分野の人間は他のジャンルの方より感じやすく、傷つきやすい傾向にあり、他人の言動や行為に敏感なことが多い。自身が傷ついたら即ハラスメントを受けたと主張する傾向が昨今多くみられるようになっている。わかりやすいハラスメント以外の、何がハラスメントで、何がハラスメントでないかの線引きが難しいのだ。

4 今後、愛知県立芸術大学のFD研修会で設定してほしいテーマやご意見がありましたら、ご記入ください。

- 芸術大学生の卒業後の動向について知りたい(今後の大学の教育研究の方向を検討するのに大切だと思う)
- このテーマで続けてほしい(具体的な内容をもう少し話してほしい)
- 学生から相談を受け場合の対応方法について研修してほしい
- 何の事前説明もなしにハラスメント相談員を任命するのは組織の安全配慮に欠ける
- モンスター学生への対応
- 学生(特に院生)に向けた「フリーランス新法について」の研修会を行ってほしい。
- ハラスメント学習の機会が増えてはいるが芸術教育の特殊性に踏み込んだ内容は少ない。今回内容で芸術教育に外側から限りなく接近してくださったとは思いますが物足りない。理由は芸術教育はその性格上、個人のプライバシーに深く関わるからだ。学生と教師が共同して学生の自己理解を掘り下げるプロセスそのものが芸術教育の本質である。これは一般的な教育とは正反対にも思える。今回のレクチャーは芸術教育のリスク認識を高めるのみで現場の教員の萎縮を招くだけでも思える。出口が見える企画が必要に思う。
- 過去にあったハラスメント問題に対し教授会等でしっかりした説明がなく、それにより多大な悪影響がある。
- 他専攻(教員組織)のことではあるがもめているのが明白。統率がとれていないのではと思う。
- 工作上、専門分野(教育・研究)と大学運営(事務の仕事)のアンバランスが明確。
- 施設のアンバランス(学生に説明ができない苦しさ)。
- 著作権問題
これもハラスメント問題と同様に未だあいまいな点が多いですが、創作者、研究者を育てる大学としては常にこれにアンテナを張って情報更新して行く必要があると思います。
- 良い教育をする為に自己の研鑽をつむ為に先生がなされている工夫を知りたい。
- 発達障害、学習障害への知識と、就学に困難を抱える学生への支援について。
- アーティストのための社会保障講座(年金制度、医療保険など)。
- 日本の芸術大学が置かれている現状把握
(大学行政、若年人口、国内外の芸大の取り組み等に関する勉強会みたいな)
- FDの本質: 大学教育を学習者中心に変える
FD→大学の教員が授業の内容や方法を改善し、向上させるために実施する組織的な取り組みのこと
この原点に立ち返ったテーマや内容を用意してほしい。

- ハラスメント対策は重要なテーマなので、専門家をファシリテーターとして呼び出してのワークショップ形式や座談会形式があってもよいのではと思います。
- 次の話として具体的なケースの話を聞いてみたい。
- 学生のアンケートの結果を踏まえ、各専攻での問題解決、授業力向上のための取り組みの事例紹介(各学部2名程度)
- 芸術の現場での実際にあったハラスメントの事例
- 契約上で問題になった実際にあった事例
- 権利意識が前のめりで強い自己主張におちいる、現代的な問題とハラスメントの関係についての話が聞きたい。誰が加害者で誰が被害者なのか、何がハラスメントなのか、デリケートな領域についてどう理解しあえるのか、そのような段階に今のハラスメント問題は来ていると思う。

5 今後、FD研修会の開催時期について、適当と思う時期を教えてください。

※複数回答あり。

	人数	割合
4～7月	4	13%
8～9月	6	20%
10～1月	8	27%
2～3月	2	7%
その他	2	7%
未回答	10	33%

・具体的な時期

内容・目的によって異なる

特になし

後期授業が始まる前

芸大祭の準備、片付けの時期はありだと思います

いつでもいい(2名)

オンラインでやってほしかった(教員の時間確保のため)